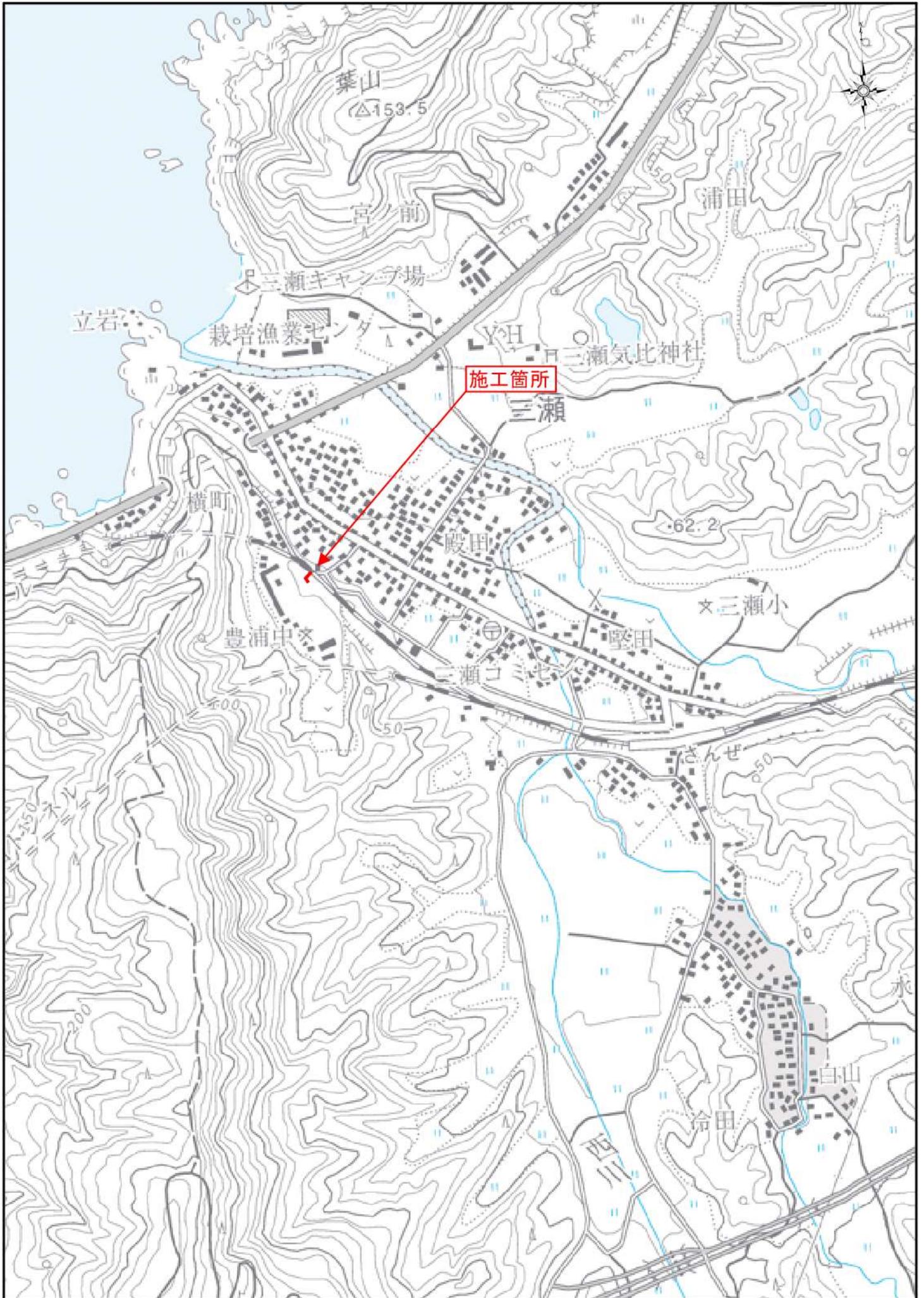


鶴岡市集落排水事業 三瀬地区管路施設105～148号新設工事設計書



1:10000

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 平24情保、第244-30078号)」



1:10000

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 平24情保、第244-30078号)」

工事番号		施工年度	令和7年度
工事名称	鶴岡市集落排水事業 三瀬地区管路施設105～148号新設工事		
工事場所	鶴岡市 由良 地内ほか		
施工主		<p>工事概要 (うち補助事業分)</p> <p>施工延長L=129.7m(102.7m) 管体延長L=125.2m( 99.1m)</p> <p>1. 開削：自然流下区間 PRP φ 150 施工延長L=27.00m(0.00m) 管体延長L=26.10m(0.00m)</p> <p>2. 開削：自然流下区間 PRP φ 200 施工延長L=71.40m(71.40m) 管体延長L=69.15m(69.15m)</p> <p>3. 推進：低耐荷力オーガ方式 本管：SSPS φ 200 施工延長L=22.00m(22.00m) 管体延長L=21.55m(21.55m) 推進延長L=20.22m(20.22m)</p> <p>4. 推進：簡易推進工(さや管推進) 本管：VP φ 200、鋼管さや管 φ 300 施工延長L=9.30m(9.30m) 管体延長L=8.40m(8.40m) 推進延長L=7.80m(7.80m)</p> <p>5. マンホール工 組立1号マンホール φ 900 N=4箇所(4箇所) 小型マンホール塩ビ製 N=2箇所(0箇所)</p> <p>6. 立坑工 鋼製ケーシング立坑 φ 2000 N=1箇所(1箇所)</p> <p>7. 取付管およびます工 取付管 VU φ 150 N=1箇所(0箇所) 公共汚水ます φ 200塩ビ製 N=1箇所(0箇所)</p>	
設計区分	管路施設		
路線名			
工事期間	令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日		
工事日数	日		
部 課 名			
積算担当			
合計額			
工事価格			
消費税相当額			

# 本 工 事 内 訳 書

工事区分	工 種	種 別	細 別	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
本工事費						4週8休	労務費 1.04 機械賃料 1.02	場所区分:一般交通影響有り(2)
	管路(補助)							
	管きよ工(開削)			式	1			(第 1号内訳書)
		管路土工		式	1			第 1号明細書
		管布設工		式	1			第 2号明細書
		管基礎工		式	1			第 3号明細書
		管路土留工		式	1			第 4号明細書
		開削水替工		式	1			第 5号明細書
	マンホール工			式	1			(第 2号内訳書)
		組立マンホール工		式	1			第 6号明細書
	管きよ工(小口径推進)			式	1			(第 3号内訳書)
		低耐荷力オーガ推進工		式	1			第 7号明細書
		立坑内管布設工		式	1			第 8号明細書

# 本 工 事 内 訳 書

工事区分	工 種	種 別	細 別	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
		仮設備工（小口径）		式	1			第 9号明細書
		さや管推進工		式	1			第 10号明細書
		立坑内管布設工		式	1			第 11号明細書
	立坑工			式	1			(第 4号内訳書)
		鋼製ケーシング式土留及び土工		式	1			第 12号明細書
		路面覆工		式	1			第 13号明細書
		軽量鋼矢板土留工		式	1			第 14号明細書
	付帯工			式	1			(第 5号内訳書)
		舗装版破碎工		式	1			第 15号明細書
		舗装仮復旧工		式	1			第 16号明細書
	仮設工			式	1			(第 6号内訳書)
		交通管理工		式	1			第 17号明細書
	管路（単独）							

# 本 工 事 内 訳 書

工事区分	工 種	種 別	細 別	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
	管きよ工（開削）			式	1			（第 7号内訳書）
		管路土工		式	1			第 18号明細書
		管布設工		式	1			第 19号明細書
		管基礎工		式	1			第 20号明細書
		開削水替工		式	1			第 21号明細書
	マンホール工			式	1			（第 8号内訳書）
		組立マンホール工		式	1			第 22号明細書
		小型マンホール工		式	1			第 23号明細書
	取付管およびます工			式	1			（第 9号内訳書）
		管路土工		式	1			第 24号明細書
		ます設置工		式	1			第 25号明細書
		取付管布設工		式	1			第 26号明細書
	付帯工			式	1			（第 10号内訳書）

# 本 工 事 内 訳 書

工事区分	工 種	種 別	細 別	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
			舗装版破碎工	式	1			第 27号明細書
			舗装仮復旧工	式	1			第 28号明細書
	仮設工			式	1			(第 11号内訳書)
			交通管理工	式	1			第 29号明細書
	直接工事費計							
	共通仮設費計							
			事業損失防止施設費	式	1			第 12号内訳書
	運搬費			式	1			第 13号内訳書
	準備費			式	1			第 14号内訳書
	技術管理費			式	1			第 15号内訳書
	共通仮設費			式	1			
	純工事費							
	現場管理費			式	1			

























第 8号

立坑内管布設工

1式当たり

明細書

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
硬質塩化ビニル管		式	1			第 13号明細書
計						





第 11号

立坑内管布設工

1式当たり

明細書

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

硬質塩化ビニル管		式	1			
----------	--	---	---	--	--	--

第 18号明細書

計						
---	--	--	--	--	--	--

第 12号

鋼製ケーシング式土留及び土工

1式当たり

明細書

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
鋼製ケーシング圧入掘削		式	1			第 19号明細書
埋戻し		式	1			第 20号明細書
底盤コンクリート		式	1			第 21号明細書
圧入掘削設備		式	1			第 22号明細書
鋼製ケーシング存置		式	1			第 23号明細書
仮設ケーシング損料等		式	1			第 24号明細書
現場発生品運搬		式	1			第 25号明細書
立坑排水		式	1			第 26号明細書
排水運搬処理		式	1			第 27号明細書
計						

第 13号

路面覆工

1式当たり

明細書

名 称

規 格

単 位 数 量

単 価

金 額

摘 要

円形覆工板

式

1

第 28号明細書

計



























第 27号

舗装版破碎工

1式当たり

明細書

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
舗装版切断		式	1			第 56号明細書
舗装版破碎		式	1			第 57号明細書
殻運搬処理		式	1			第 58号明細書
計						

















第 3号

発生土処理

1式当たり

明細書

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
土砂等運搬	小規模、ハック材山積0.28m <sup>3</sup> (平積0.2m <sup>3</sup> )、土砂(岩塊・玉)	m <sup>3</sup>	36			
発生土運搬工 (DIDなし)	L=1 k m	m <sup>3</sup>	29			
積込 (ルーズ)	土砂、土量50,000m <sup>3</sup> 未満	m <sup>3</sup>	29			
土砂等運搬	標準、ハック材山積0.8m <sup>3</sup> (平積0.6m <sup>3</sup> )、土砂(岩塊・玉石混)	m <sup>3</sup>	29			
発生土運搬工 (DIDなし)	L=11.1 k m	m <sup>3</sup>	27			
発生土運搬工 (DIDなし)	L=8.4 k m	m <sup>3</sup>	7			
発生土運搬工 (DIDなし)	L=1 k m	m <sup>3</sup>	38			
積込 (ルーズ)	土砂、土量50,000m <sup>3</sup> 未満	m <sup>3</sup>	38			
土砂等運搬	標準、ハック材山積0.8m <sup>3</sup> (平積0.6m <sup>3</sup> )、土砂(岩塊・玉石混)	m <sup>3</sup>	38			
建設発生土処理費 佐藤建設(株)	コーン指数<800KN/m <sup>2</sup> (第3・4種発生土)	m <sup>3</sup>	91			
計						











第 9号

組立1号マンホール

1式当たり

明細書

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
組立マンホール設置工	1号(内径900mm) 3m以下	箇所	4			
底部工(1号マンホール)	基礎、床版、インバート	箇所	4			
底版(1号マンホール・φ900)	1号用	個	4			
躯体ブロック(1号マンホール・φ900)	900×1500	個	3			
躯体ブロック(1号マンホール・φ900)	900×1800	個	1			
直壁(1号マンホール・φ900)	900×600	個	1			
直壁(1号マンホール・φ900)	900×1500	個	1			
斜壁(1号マンホール・φ900)	600×900×300	個	3			
斜壁(1号マンホール・φ900)	600×900×450	個	1			
調整リング φ600×調整高 50mm		個	2			
調整リング φ600×調整高100mm		個	2			
マンホール調整金具	調整高25mmまで	組	2			
マンホール調整金具	調整高45mmまで	組	2			















第 16号

さや管推進  
IDN工法参考

1式当たり

明細書

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
特殊材料費		式	1			
推進機組立据付		箇所	1			
鏡切工		箇所	2			
さや管推進工		m	7.8			
排土工		m	7.8			
推進機撤去工		箇所	1			
MCグラウト注入工		m <sup>3</sup>	0.3			
塩ビ管挿入工		m	7.8			
諸雑費		式	1			
計						































第 32号

## 軽量鋼矢板土留

1式当たり

明細書

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
軽量鋼矢板建込工(両側分)	掘削深 2.5m以下	m	12			
軽量鋼矢板建込工(両側分)	掘削深 3.0m以下	m	6			
軽量鋼矢板引抜工(両側分)	掘削深 2.5m以下	m	12			
軽量鋼矢板引抜工(両側分)	掘削深 3.0m以下	m	6			
土留支保工(軽量金属支保工)	2段、掘削深3.5m以下、水圧式ハーフサポート	m	18			
軽量鋼矢板賃料		式	1			
コンクリート	無筋・鉄筋構造物、バックホウ(クレーン機能付)打設	m <sup>3</sup>	0.4			
現場発生品及び支給品運搬	トラックハーストラック2t級、吊能力2.9t、無し	t	0.3			
スクラップ費	特級A 山形単価	t	0.3			
鋼矢板(軽量型) 不足分弁償金	中古 1~3型	t	0.36			
計						











第 38号

表層

1式当たり

明細書

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
表層 (歩道部) 1層平均厚=30mm	1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下)	㎡	32			
表層 (車道・路肩部) 1層平均厚=50mm	1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下)	㎡	47			
計						























































第 66号

## 積み上げ技術管理費

1式当たり

明細書

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
土の一軸圧縮試験	JIS A1216	試料	1			
締固めた土のコーン指数試験		試料	1			
本管TVカメラ調査工 (補助分)	側視回数 0.05回/m以下	m	97			
報告書作成工 (本管TVカメラ調査工) (補助分)	本管、側視回数 0.05回/m以下	m	97			
本管TVカメラ調査工 (単独分)	側視回数 0.05回/m以下	m	26			
報告書作成工 (本管TVカメラ調査工) (単独分)	本管、側視回数 0.05回/m以下	m	26			
取付け管TV調査工 (単独分)	小型高压洗浄車不要	箇所	1			
報告書作成工 (取付け管TVカメラ調査工) (単独分)		箇所	1			
計						

令和7年度

鶴岡市集落排水事業

三瀬地区管路施設 105～148 号新設工事

下水道工事特記仕様書

【週休2日確保工事】

【下水道新設管渠品質確保対象工事】

鶴岡市上下水道部下水道課

## 1. 共通仕様書の適用

本工事の施工にあたっては、「山形県農林水産部制定共通仕様書（土木工事共通仕様書（令和6年10月）、土木工事施工管理基準及び規格値、参考資料（令和6年10月）」、「アスファルト舗装要綱 最新版」、「簡易舗装要綱 最新版」に基づき実施しなければならない。

仕様書の記載内容の優先は、「特記仕様書」、「共通特記仕様書」、「共通仕様書」の順とする。

なお、令和7年4月以降に一部改訂された内容は以下のホームページに掲載されているので、最新の改訂内容についても適用するものとする。

※共通仕様書の一部改訂内容のホームページへは

山形県のホームページ（<https://www.pref.yamagata.jp>）

- 組織別ページ
- 農林水産部
- 農村整備課
- 共通仕様書（土木工事）

## 2. 共通仕様書に対する特記事項

共通仕様書に対する特記仕様事項は次のとおりとする。

# 第1編 共通編

## 第1章 総則

### 1-1. 工事種別

工事種別は一般土木工事（下水道工事）とする。

### 1-2. 週休2日確保工事

- 1 本工事は4週8休以上の現場閉所を実施する発注者指定型の週休2日確保工事である。実施にあたっては「鶴岡市建設工事「週休2日確保工事」実施要領」に基づくため、詳細については、実施要領を確認すること。
- 2 発注者は、当初（発注）時において月単位の4週8休以上の現場閉所に応じた経費の補正を行い、工事費を積算しているため、現場閉所が月単位の4週8休に満たない場合は、通期の週休2日の補正係数に変更するものとし、通期の4週8休に満たない場合、



1. 本工事において、建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける監理技術者（以下、「特例監理技術者」という。）の配置を行う場合は、以下の（１）～（８）の要件を全て満たさなければならない。「特例監理技術者」を配置する場合においては、特記仕様書等に示す「監理技術者」を「特例監理技術者」と読み替えるものとする。
  - （１） 監理技術者補佐を専任で配置すること。
  - （２） 監理技術者補佐は、主任技術者の資格を有する者（法第7条第2号イ、ロ又はハに該当する者）のうち1級の技術検定の第一次検定に合格した者（1級施工管理技士補）又は1級施工管理技士等の国家資格者1級施工管理技士補又は1級施工管理技士等の国家資格者、学歴や実務経験により監理技術者の資格を有する者であること。なお、監理技術者補佐の建設業法第27条の規定に基づく技術検定種目は、特例監理技術者に求める技術検定種目と同じであること。
  - （３） 監理技術者補佐は、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあること。
  - （４） 同一の特例監理技術者を配置できる工事は、同時に2件までとする。ただし、同一の建設業者と締結する契約工期の重複する請負契約に係る工事であって、かつ、それぞれの工事の対象となる工作物等に一体性が認められるもの（当初の請負契約以外の請負契約が随意契約により締結される場合に限る。）については、これら複数の工事を一つの工事とみなす。
  - （５） 特例監理技術者は、施工における主要な会議への参加、現場の巡視及び主要な工程の立会い等の職務を適正に遂行しなければならない。
  - （６） 特例監理技術者と監理技術者補佐との間で常に連絡が取れる体制であること。
  - （７） 監理技術者補佐が担う業務等について明らかにすること。
  - （８） 兼務する工事が以下の①～④のいずれかに該当しないこと。
    - ① 兼務する2件の工事の予定価格（税込み）の合計が3億円を超える工事  
※ ただし、金額は予定価格であり、最終請負代金額はこの限りではない。
    - ② 発注者が鶴岡市以外の工事  
※ なお、鶴岡市発注工事には鶴岡市上下水道事業及び鶴岡市病院事業により発注する工事を含む
    - ③ 総合評価落札方式により発注する工事
    - ④ その他、入札公告等で指定する工事
2. 本工事の監理技術者が特定監理技術者として兼務することとなる場合、前項の（１）～（８）の事項について確認できる書類を提出すること。
3. 本工事において、特例監理技術者及び監理技術者補佐の配置を行う場合又は配置を要さなくなった場合は適切にコリンズ（CORINS）への登録を行うこと。

#### 1-5. 技術者の専任期間

1. 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、現場施工に着手する日については、落札決定後、監督職員との打合せにおいて定める。
2. 工事完成後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。）、事務手続き、後片付け等のみが残っている期間については、発注者と受注者の間で打合せ簿等の書面で明確にした場合に限って、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、検査が終了した日は、発注者が工事の完成を確認した旨、請負者に通知した日とする。

#### 1-6. 工事の下請け

受注者は、下請け契約の請負金額によらず工事の一部を下請けに付する場合は、下請計画（変更）報告書、下請け業者一覧表及び当該工事に係る下請け契約書の写しを提出しなければならない。また、施工体制台帳及び体系図を作成し、速やかに監督職員に提出しなければならない。

なお、下請計画（変更）報告書が提出されずに下請負業者が施工している場合は、工事の一時中止を命じる場合もありうる。

#### 1-7. 設計変更手続き

設計変更については、入札説明書、建設工事請負契約約款及び土木工事共通仕様書によるところであるが、その基本的な考え方や手続きについては、「土木工事施工円滑化関係集 山形県土木工事施工円滑化推進会議」の第1章「設計変更ガイドライン」及び第3章「工事一時中止に係るガイドライン」によるものとする。

#### 1-8. 揚重作業機械について

揚重作業機械は、クレーン車又はクレーン機能付きバックホウを標準とする。やむを得ずその他の機械を使用する場合は、書面により監督職員の承諾を得ること。

#### 1-9. 設計照査に関する事項

設計の照査並びに他の要因により、管渠法線の見直しや工法の再検討が必要になる場合は、設計図書に定められた品質（形状、寸法、仕上がり、機能、性能等を含む。）確保の観点から技術的な検討を行ったうえで、監督職員と協議を行うこと。

#### 1-10. 施工方法

1. 交通規制

本工事の施工は片側交互通行を基本とするが、~~狭隘な市道等については通行止めを基本とし、付近住宅等の進入路及び迂回路を確保すること。~~なお、住宅等への進入路の確保が困難である場合は、仮設駐車場を確保すること。作業時間帯以外は、極力舗装を行い交通開放に努めること。

## 2. 工事説明（住民への周知）

工事着手前に施工箇所、概要、スケジュール等を記し、地図を添付した「工事のお知らせ」を作成し、監督職員の承諾後に地元町内会長及び沿線住民に配布すること。

また、~~車両通行止めにて施工を行う場合は、事前に予告看板等を設置し周知を図ると共に、関係機関（幼稚園、保育園、デイサービス等）に通知すること。~~

さらに本工事の施工区間で、小中学校のスクールバス停留所と重複する箇所があるため、停留所付近の交通規制を含め、関係機関（小中学校、地元町内会）と事前協議すること。

## 3. 交通開放

交通量の多い路線などにおいては路盤状態による開放は行わず、舗装後の開放となるよう工程管理することを原則とする。なお、舗装後の開放が難しい場合は、事前に発注者と協議を行わなければならない。

### 1-1-1. 境界確認

工事着手前には、土地所有者又は権利者と境界立会いを実施し官民境界を確認することを原則とする。

### 1-1-2. 建設副産物関係

1. 本工事により発生する特定建設資材廃棄物（コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材）は、再資源化施設に搬出するものとする。特に、下記に示す特定建設資材廃棄物の搬出先はそれぞれ次の条件を満たすものとする。

#### 【コンクリート塊】

規格品の再生クラッシャーラン（RC-40）として再資源化している再資源化施設

#### 【アスファルト塊】

再生加熱アスファルト混合物の原材料として再利用している再資源化施設（アスファルトプラントでなくとも、そのアスファルト塊が、最終的に再生加熱アスファルト混合物として利用されることが確認できる施設でも可。）

2. 建設リサイクル法第6条に規定する「建設資材廃棄物の再資源化等に要する費用の適正な負担」に基づき、条件明示する特定建設資材廃棄物の搬出施設は、下記のとおりである。なお、搬出完了後、産業廃棄物管理票（マニフェスト）について、監督職員から請求があった場合は提示しなければならない。

【コンクリート塊】

設計	①受入場所	②再資源化施設名	③受入時間
○	鶴岡市西目字山田森 28-1	小野寺建設(株)	8:00~17:00
	鶴岡市斎藤川原字石川端 77-1	田川砂利工業(株)	8:00~17:00
	鶴岡市勝福寺字根木瀬 158-1	鶴岡建設(株)	8:00~17:00
	鶴岡市大字馬町宮ノ腰 115	(株)三浦土建	8:00~17:00
	鶴岡市藤島字西細杖 262-2	日本海アスコ共同企業体	8:00~17:00
	鶴岡市柳久瀬字武良免 17-7	(株)青木建材	8:00~17:00

【アスファルト塊】

設計	①受入場所	②再資源化施設名	③受入時間
○	鶴岡市勝福寺字根木瀬 158-1	鶴岡建設(株)	8:00~17:00
	鶴岡市大字馬町宮ノ腰 115	(株)三浦土建	8:00~17:00
○	鶴岡市藤島字西細杖 262-2	日本海アスコ共同企業体	8:00~17:00
	鶴岡市柳久瀬字武良免 17-7	(株)青木建材	8:00~17:00

【舗装、コンクリート版切断時に発生する濁水】

設計	①受入場所	②再資源化施設名	③受入時間
	東田川郡庄内町堤興屋字中島 38	(株)安藤組	8:00~17:00

3. 受注者は、資源有効利用促進法第9条の規定により、工事の施工により発生した建設発生土の再生処理の搬出施設を定めなければならない。

【土質改良土】

設計	①受入場所	②再資源化施設名	③受入時間
○	鶴岡市山田字境興屋	佐藤建設(株)友江プラント	8:00~17:00

4. 受注者は、前2項の条件明示事項と別の方法による場合においては、土木工事共通仕様書第1編共通編1-1-21（建設副産物）第2項の規定に基づき適正に処理されていることを確認し、発注者に提示しなければならない。

なお、この場合において、搬出予定の再資源化施設が第1項に規定する条件を満たすことを証する書類等の提出を求められた場合は、速やかにこれを提出しなければならない。

5. 受注者は、契約締結後、自らの都合により建設工事請負契約約款様式第1号の2（解体工事に要する費用等調書）への記載内容と別の方法等に変更する場には、あらかじめ

め監督職員へ説明を行い、承諾を得るものとする。

なお、この場合において、搬出予定の再資源化施設が第1項に規定する条件を満たすことを証する書類等の提出を求められた場合は、速やかにこれを提出しなければならない。

また、この場合であっても設計図書の変更は行わないものとする。

6. 土木工事共通特記仕様書第1編共通編1-1-11（建設副産物）第4項に規定する再生資源利用計画書（実施書）及び再生資源利用促進計画書（実施書）作成のため、「建設リサイクル報告様式（計画書・実施書）及」（EXCEL様式）は、国土交通省の下記のリサイクルホームページより入手が可。

国土交通省のホームページ（<https://www.mlit.go.jp>）

- 政策情報・分野別一覧
- 総合政策
- 建設リサイクル
- 建設リサイクル報告様式

なお、「建設副産物情報交換システム－COBRIS－」（財日本建設情報総合センターWeb版入力システム）に登録する場合は監督職員の承諾を得ること。

7. 工事完成後、「建設リサイクル報告様式（計画書・実施書）」により作成した再生資源利用計画書（実施書）及び再生資源利用促進計画書（実施書）のデータ（EXCEL様式）をE-Mail又はCDにより監督職員へ提出すること。
8. 本工事で発生する建設副産物のうち、山形県内の最終処分場に搬入される建設廃棄物については、産業廃棄物の処理にかかる税（山形県産業廃棄物税）が課税されるので、適正に処理すること。

### 1-13. デジタル工事写真の黒板情報電子化

デジタル工事写真の黒板情報電子化は、受発注者双方の業務効率化を目的に、被写体画像の撮影と同時に工事写真における黒板の記載情報の電子的記入及び工事写真の信憑性確認を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化、工事写真の改ざん防止を図るものである。

本工事でデジタル工事写真の黒板情報電子化を行う場合は、契約締結後、監督職員の承諾を得たうえで、デジタル工事写真の黒板情報電子化対象工事（以下、「対象工事」という。）とすることができる。対象工事では、以下の第1項から第4項の全てを実施することとする。

#### 1. 対象機器の導入

受注者はデジタル工事写真の黒板情報電子化の導入に必要な機器、ソフトウェア等（以下、「使用機器」という。）については、共通仕様書 写真管理基準 2-2 撮影方法に示す項目の電子的記入ができること、かつ信憑性確認（改ざん検知機能）を有

するものを使用することとする。なお、信憑性確認（改ざん検知機能）は、「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト(CRYPTREC 暗号リスト)」

(URL:<https://www.cryptrec.go.jp/list.html>)

に記載している技術を使用していること。また、受注者は監督職員に対し、工事着手前に本工事での使用機器について提示するものとする。

なお、使用機器の事例として、

「デジタル工事写真の黒板情報電子化対応ソフトウェア」

(URL:[https://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index\\_digital.html](https://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index_digital.html))

を参照すること。ただし、この使用機器事例からの選定に限定するものではない。

## 2. デジタル工事写真の黒板情報の電子的記入

受注者は、前項の使用機器を用いてデジタル工事写真を撮影する場合は、被写体と黒板情報を電子画像として同時に記録してもよい。黒板情報の電子的記入を行う項目は、共通仕様書 写真管理基準 2-2 撮影方法による。ただし、対象工事において、高温多湿、粉じん等の現場条件の影響により、対象機器の使用が困難な工種については、使用機器の利用を限定するものではない。

## 3. 黒板情報の電子的記入の取扱い

本工事の工事写真の取扱いは、共通仕様書 写真管理基準(デジタル写真管理情報基準)に準ずるが、前項に示す黒板情報の電子的記入については、写真管理基準 2-4 写真の編集等及びデジタル写真管理情報基準 6.写真編集等で規定されている写真編集には該当しない。

## 1-14. 社内検査

1. 本工事は、社内検査対象工事とする。
2. 社内検査に従事する者（以下「社内検査員」という。）が検査（完成、一部完成、中間検査、出来高検査をいう。以下同じ。）の事前に契約図書及び関係図書に基づき、品質、出来形、写真管理はもとより工事全般にわたり行い、その結果を品質証明書[様式-33]を用いて提出しなければならない。
3. 社内検査員は、当該工事に従事していない社内の者とする。
4. 社内検査員の資格は、10年以上の現場経験を有し、技術士若しくは1級土木施工管理技士の資格を有する者とする。ただし、監督職員の承諾を得た場合はこの限りではない。
5. 社内検査員を定めた場合、書面により氏名、資格（資格証書の写しを添付）、経験及び履歴書を提出しなければならない。社内検査員を変更した場合も同様とする。

なお、社内検査員指定通知書等の様式は品質証明員指定（変更）通知書[様式-(14)]の様式を流用すること。

## 1-15. 施工管理

### 1. 主たる工種

- (1) 本工事における「主たる工種」は下記の工種とし、出来形管理図表（出来形測定結果表及び出来形図）及び品質管理図表のほか、出来形及び品質のばらつきが判断できる資料として、工程能力図又は度数表（ヒストグラム）を作成し提出するものとする。なお、受注者が施工管理上必要などの理由により、これ以外のものを作成することを妨げるものではない。

本工事に用いる出来形管理値は、共通仕様書（土木工事施工管理基準及び規格値）第1編共通工事並びに第8編管水路工事、第4編農道工事によるものとする。また、品質管理は、共通仕様書（土木工事施工管理基準及び規格値）1. コンクリート関係、2. 土質関係、4. アスファルト関係によるものとする。（なお、国県市道の場合は、2. 土質関係及び4. アスファルト関係の現場密度の施工管理にあたっては、「山形県県土整備部制定共通仕様書（土木工事共通仕様書（令和5年1月）、土木工事施工管理基準及び規格値、参考資料（令和元年11月）に基づき実施しなければならない。

#### 【主たる工種】

工 種	備 考
管渠工	
人孔工	

- (2) 「主たる工種」については、関連する共通仕様書（土木工事施工管理基準及び規格値）の出来形管理基準、品質管理基準に定めるある基準値及び規格値すべてについて工程能力図又は、度数表（ヒストグラム）を作成し、提出することを原則とするが、測定数が5点未満の場合については、監督職員と協議し省略することができるものとする。

2. 本工事に用いる規格値は、共通仕様書（土木工事施工管理基準及び規格値）によるほか、下記によるものとする。

#### 【出来形管理】

工種	測定項目	規格値	測定基準
マンホール工 (圧入式)	偏心量	100mm 以内	全数についてマンホールの中心 で測定

#### 【品質管理】

工種	測定項目	規格値	測定基準
----	------	-----	------

管渠工	埋戻し土の締固め土 (現場密度試験)	締固め度 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路体の場合、1,000 m<sup>2</sup>につき1回の割合で行う。ただし5,000 m<sup>2</sup>未満の工事では1工事あたり3回以上。</li> <li>・路床の場合、500 m<sup>2</sup>につき1回の割合で行う。ただし1,500 m<sup>2</sup>未満の工事は1工事あたり3回以上。</li> </ul> ※ただし、舗装構成の異なる路線毎に行うこと。
〃	一軸圧縮強度 (一軸圧縮試験)	28日強度 (現場) 50~100kPa	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100mあたり1回以上。</li> </ul> ※ただし、舗装構成の異なる路線毎に行うこと。

#### 1-16. ワンデーレスポンス

1. 「ワンデーレスポンス」は、受注者からの質問、協議への回答を、基本的に即日回答するよう対応するものである。ただし、即日回答が困難な場合は、受注者と協議のうえ、回答期限を設けるなど、何らかの回答を即日にするものである。
2. 実施にあたっては、「工事監督におけるワンデーレスポンス実施要領」に基づき実施するものとする。
3. 受注者は計画工程表の提出にあたって、作業間の関連把握や工事の進捗状況等を把握できる工程管理方法について、監督職員と協議をおこなうこと。
4. 受注者は工事実施中において問題が発生した場合又は計画工程と実施工程を比較照査し、差異が生じた場合は速やかに文書にて監督職員へ報告すること。

#### 1-17. 品質証明

1. 受注者は、施工した管渠の品質を証明するため試験又は調査を実施し、報告書を提出しなければならない。
2. 試験又は調査の方法及び手順、報告書の作成については下記のとおりとする。

管渠種別	試験又は調査の方法	手 順	報告書の作成
自然流下管	本管テレビカメラ調査	鶴岡市下水道道新管テレビカメラ調査要領による	同左
取付管	取付管カメラ調査	同上	同左
圧送管	水密試験(機密試験)	鶴岡市下水道圧送	同左

		管調査手順書による	
--	--	-----------	--

#### 1-18. 履行報告

受注者は、請負代金が1,000万円以上となる工事においては、毎月の履行状況を工事履行報告書(様式第10号の3)により翌月初めまで監督職員に提出しなければならない。なお、予定工程に対して10%以上遅延している場合は、フォローアップを実施し、その実施方法に関して書面において提出すること。(施工パーティー1班追加等。)

#### 1-19. 前金払い・中間前金払い

- ~~1. 本工事は債務負担行為によるものから、前金払い請求を行う場合は、令和5年4月1日以降に請求すること。~~
2. 契約約款36条第3項に基づき中間前金払いを請求しようとするときは、あらかじめ中間前金払い認定請求書(様式第10号の2)に監督職員の確認を受けた直近の履行報告書(様式第10号の3)の写しのほか必要な書類等を添えて提出するものとする。

#### 1-20. 工事名表示板に関する事項(安全確保関係)

1. 工事名表示板に記載する工事の種類及び工事内容の説明は次のとおりとする。

工事の種類	下水道工事中。
工事内容の説明	道路に下水道管を埋設しています。

2. 本工事は道路上における工事であることから、工事名看板記載の「工事期間」は契約上の期間とし、これとは別に、適宜交通上支障を与える期間をしめした表示により周知を図るものとする。

#### 1-21. 石綿障害予防規則第9条に関する事項(安全確保関係)

石綿障害予防規則に基づき、解体等の作業における保護具の装着、湿潤を保つ装置を行う費用、石綿の使用の有無を分析によって調査した場合に要する費用、特別の教育を受注者が実施する場合の費用については、当初積算では計上していないため、それらに要した費用について監督職員と協議のうえ、設計変更で見込むものとする。

また、石綿の使用の有無を分析によって調査する場合の工期の変更についても、契約書の関係条項に基づき適切に変更することとする。

#### 1-22. 施工方法、時間の制限に関する事項（環境対策関係）

本工事の施工に使用する建設機械は、排出対策型によるものとする。

ただし、これにより難しい場合は、監督職員と協議するものとする。

#### 1-23. 事業損失に関する事項（環境対策関係）

##### 1. 家屋等の工損等調査

(1) 別に定める「補償事務の手引き」に基づき、沿道（周辺を含む）家屋等の事前調査、事後調査を実施し、市様式「工損事前事後調査調書」により報告すること。

(2) 被害が発生した場合、その被害全部について調査を前項に準じて行うこと。

(3) 前項の被害調査結果を発注者に報告し、補償事務の公平と統一を確保するため協議すること。

##### 2. 家屋等の応急措置

第三者の家屋に与えた被害が日常生活、又は営業上著しい支障を生じる場合は応急措置を講じ、その内容を監督職員に報告すること。

##### 3. 家屋等の被害補償

(1) 受注者の施工上の原因により発生した家屋被害については、受注者は被害者と協議し合意に達した工法又は方法で補償すること。基本は金銭補償とする。

(2) (2) 1項により難しい場合は、「家屋工作物被害発生状況調書」により監督職員に要請すること。

4. 施工途中において、工事騒音、振動、地下水低下等の影響により、調査及び対策の必要が生じた場合は、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。

5. 工事の施工に伴い、騒音振動の測定が必要になった場合は、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。

#### 1-24. 交通安全に関する事項（交通安全管理関係）

##### 1. 交通誘導員の配置

交通管理に要する交通誘導員の配置計画は任意とする。なお、交通管理者との協議により配置計画について条件が付せられた場合には、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。

2. 歩行者用の仮設道路が必要となった場合は、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。

3. 車両乗入れ部等の工事の際に覆工等が必要となった場合は、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。

4. 施工に伴い段差擦り付けが必要になった場合は、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。

1-25. 施工時期、時間、施工方法の制限事項（工程関係）

1. 本工事の施工は、1班体制により設計積算及び計画している。なお、これにより施工計画を策定しなければならない。
2. 本工事において、他の管理者より施工時間帯等の制約を受けた場合は、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。
3. 本工事の作業時間帯は下表のとおりとする。なお、受注者は、関係機関等との調整の結果、作業時間帯に変更が生じた場合は、作業時間帯に関して速やかに監督職員と協議しなければならない。

工種又は種別・細別	時 間 帯		期 間
	作業開始	作業終了	
全工種	8時30分	17時00分	

4. 受注者は、中断期間内は現場内巡視点検を行い安全の確保に努めなければならない。

1-26. 工事支障物件に関する事項（工程関係）

1. 地下埋設物・架空線等

- (1) 現況測量時に周囲の状況を確認し、埋設物（水道、電力、NTT、ガス）に関しては、必ず地下埋設物証明申請書兼証明書により確認すること。

なお、上空に特別高圧（7,000V以上）がある箇所においては、着工前に必ず東北電力ネットワーク(株)山形支社（山形市本町二丁目1番9号）へ施工協議を行い、その結果を監督職員に報告すること。

- (2) マンホール箇所毎に試掘を行い、地下埋設物の種類、位置等を調査し、下水道管布設箇所との離隔を図面及び写真等により監督職員に報告すること。

また、試掘の結果、地下埋設物が施工に支障となる場合、監督職員より支障物の管理者へ移設を依頼し、埋設物管理者の支障物件移設工事完了後、下水道管布設工事に着手すること。

試掘に関わる費用は、共通仮設費（準備費）において1箇所あたり（A=1.0m<sup>2</sup>、H=1.2m程度）として計上しており、数量の軽微な増減による変更は行わない。なお、現場状況によりこれにより難しい場合は監督職員と協議するものとする。

- (3) 水路構造物の下越を予定する箇所においては杭構造物に接触しないように十分離隔をとること。

## ~~1-27. 他工事との関連事項（工程関係）~~

- ~~1. 本工事の施工に際して、別途発注済の工事及び発注予定の工事と工程及び交通規制の調整を図ること。~~

## 1-28. 災害時の協力体制

### 1. 緊急巡視

- (1) 緊急巡視とは、台風、豪雨、豪雪、地震等により、工事現場において災害が発生した場合、又はその恐れがある場合にその状況を把握し適切な措置を講じるもので、監督職員の指示により巡回を行うものである。
- (2) 緊急巡回担当者は、工事現場の異常等を発見した場合には、速やかにその危険を防止するため、その場でとりうる適切な措置を講じるとともに、その状況について監督職員に報告するものとする。
- (3) 緊急巡回にあたっては、写真撮影により日時及びその状況を記録しておくものとする。
- (4) 緊急巡回中に事故が発生したときは、速やかにその状況を監督職員に報告しなければならない。

### 2. 災害時の協力体制と緊急時の諸作業

工事現場が災害等で被災した場合に備え、協力体制を確立しなければならない。

3. 緊急巡回及び緊急時の諸作業に関する詳細については、発注者・受注者双方の協議により行うものとする。
4. 工事現場のほか、下水道施設が被災した際は、復旧に向けて協力するものとする。

## 1-29. 事故報告

1. 受注者は、工事の施工中に事故が発生した場合には、第1報を直ちに監督職員へ電話にて通報するとともに、通報後速やかに建設工事労働災害事故報告書（共通仕様書（参考資料）参考様式5）をFAX、又はE-Mailにより提出しなければならない。
2. 報告する事故の分類は、当該建設工事現場に関する「労働災害」、「もらい事故」、「死傷公衆災害」、「物損公衆災害」とし、事故の規模を問わずすべて報告すること。
3. 建設工事労働災害事故報告の様式は、以下のホームページに掲載している。

山形県のホームページ（<http://www.pref.yamagata.jp>）

- 県政情報
- 山形県の紹介
- 組織案内
- 県土整備部
- 建設企画課
- 共通仕様書（土木工事）

### 1-30. 労働者確保に関する積算方法の試行工事

本工事は、労働者確保に関する積算方法の試行工事の対象とする。

1. 本工事は、「共通仮設費（率分）のうち営繕費」及び「現場管理費のうち労働管理費」の次に示す費用（以下「実績変更対象間接費」という。）について、工事実施にあたって不足する技術者や技能者を広域的に確保せざるを得ない場合も考えられることから、契約締結後、労働者確保に要する方策に変更が生じ、土木工事標準積算基準書（山形県県土整備部）による積算金額相当では適正な工事の実施が困難になった場合は、実績変更対象間接費の支出実績を踏まえて最終精算変更時点で設計変更する。

営繕費：労働者送迎費宿泊費、借上費

（宿泊費、借上費については労働者確保に係るものに限る。）

労務管理費：募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤等に要する費用。

2. 本工事の予定価格の算出基礎とした設計額（土木工事標準積算基準書に基づき算出した額）における実績変更対象間接費の割合は次のとおりである。
  - (1) 共通仮設費（率分）に占める実績変更対象間接費（労働者送迎費、宿泊費、借上費）の割合：9.45%
  - (2) 現場管理費に占める実績変更対象間接費（募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤等に要する費用）の割合：1.26%
3. 受注者は、実績変更対象間接費の支出実績を踏まえて設計変更を希望する場合は、実績変更対象間接費にかかる費用の内訳を記載した「労働者確保に係る実績報告書（様式1）」及び実績変更対象間接費について実際に支払ったすべての証明書類（領収書、領収書の出ないものは金額の適正性を証明する金額計算書など。）を監督職員に提出し、設計変更の内容について協議するものとする。
4. 受注者の責めによる工事工程の遅れ等受注者の責めに帰すべき事由による増加費用については、設計変更の対象としない。
5. 発注者は、実績変更対象費の支出実績を踏まえて設計変更する場合、受注者が実績変更対象間接費について実際に支払った額のうち証明書類において確認された費用から、土木工事標準積算基準に基づき算出した額における実績変更対象間接費を差し引いた費用を加算して算出する。なお、すべての証明書類の提出がない場合であっても、提出された証明書類をもって金額の変更を行うものとする。
6. 受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び入札参加資格制限等の措置を行う場合がある。
7. 受注者は、実績対象間接費に係る設計変更について疑義が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。

### 1-3 1. 建設現場における遠隔臨場

#### 1. 建設現場における遠隔臨場の実施

「建設現場における遠隔臨場の実施」は、受注者における「段階確認に伴う手待ち時間の削減や確認書類の簡素化」や発注者(監督職員)における「現場臨場の削減による効率的な時間の活用」を目指し、動画撮影用のカメラ(ウェアラブルカメラ等)と Web 会議システム等を介して「段階確認」、「材料確認」及び「立会」の遠隔臨場を行うものである。なお、遠隔臨場は、建設現場における遠隔臨場に関する実施要領(案)(山形県県土整備部)の内容に従い実施する。

#### 2. 遠隔臨場の適用

現場条件により遠隔臨場の適用性が一致しない場合も想定されることから、現場での適用、不適用については、受発注者間にて協議のうえ、適用を選定することができる。受注者は適用する工種、確認項目に関する協議資料作成にあたり、「建設現場における遠隔臨場に関する実施要領(案)」別表 1~3 を参考とする。

#### 3. 実施内容

##### (1) 段階確認、材料確認及び立会での確認

受注者が動画撮影用のカメラ(ウェアラブルカメラ等)により取得した映像及び音声を、Web 会議システム等を介して「段階確認」、「材料確認」及び「立会」を行うものである。なお、ウェアラブルカメラ等の使用は、「段階確認」、「材料確認」及び「立会」だけでなく、現場不一致、事故などの報国寺島でも活用効果が期待されることから、受注者の創意工夫等、自発的に実施する行為を妨げるものではない。

##### (2) 機器の準備

遠隔臨場に要する動画撮影用のカメラ(ウェアラブルカメラ等)や Web 会議システム等は受注者が手配、配置するものとする。これによらない場合は監督職員等と協議し、決定するものとする。下表に動画撮影用カメラ、Web 会議システム等に関する参考数値及び発注者の標準的な通信環境の仕様を参考に示す。

#### 【動画撮影用のカメラに関する仕様】

項目	使用	備考
映像	画素数:640×480 以上	カラー
	フレームレート:15fps 以上	
音声	マイク:モノラル(1チャンネル)以上	
	スピーカー:モノラル(1チャンネル)以上	

#### 【Web 会議システムに関する仕様】

項目	使用	備考
----	----	----

通信回線速度	下り最大 500Mbps、上り最大 5Mbps	
映像・音声	転送レート (VBR): 平均 1Mbps 以上	

【画質・画素数と最低限必要な通信速度】

画質	画素数	最低限必要な通信速度
360p	640×480	530kbps
480p	720×480	800kbps
720p	1280×1080	1.8Mbps
1080p	1920×1080	3.0Mbps
2160p	4096×2160	20.0Mbps

※ 使用する機器の機能としては使用を満たしていても、機器の設定により、仕様を満たさない場合があるため、注意すること。(例:使用する端末の画質を「高設定」にした場合は使用を満たすが、「低設定」にした場合、仕様を満たさないことがあるため、端末画質を「高設定」にすること。)

【発注者の標準的な通信環境の仕様】

項目	仕様	
通信プロトコル方式及び ポート番号	TCP	80、443
	UDP	なし
利用環境	OS	Windows10
	ブラウザ	Microsoft Edge、Google Chrome
	アプリケーション	ZOOM、Teams、Goolge Meet

(3) 遠隔臨場を中断した場合の対応

電波状況等により遠隔臨場が中断された場合の対応について、事前に受発注者間で協議を行う。対応方法に関しては、確認箇所を画像・映像で記録したものをメール等の代替手段で共有し、監督職員等は机上確認することも可能とする。なお、本項目は受発注者間で協議し、別日の現場臨場に変更することを妨げるものではない。

(4) 費用

遠隔臨場に係る費用については、技術管理費に積上げ計上する。なお、詳細については、最新の遠隔臨場に関する事務連絡等を参照すること。

1-32. 不可抗力による損害に関する事項

本工事における天災等は、共通仕様書第1編第1章総則1-1-45（不可抗力による損害）第2項の各号に掲げる基準を超えるものとする。

### ~~1-33. 公共污水マヌ設置位置及び深さ~~

- ~~1. 公共污水マヌ調査責任者を専任し、隣接地権者全てより「公共污水マヌ設置確認書」及び「公共污水マヌ不要に係る確認事項」を回収し監督職員へ提出すること。~~
- ~~2. 公共污水マヌ調査責任者は、公共污水マヌ設置個所及び深さが想定される宅内排水設備の基準（土被り及び管勾配等）を満足できるか確認しなければならない。~~
- ~~3. 宅内排水設備より公共污水マヌの深さが90cm以下となる場合であっても、90cm以下としないこと。（公共污水マヌ最小深さ90cm（標準）とする。）~~

なお、本管の埋設位置や宅地状況等により公共污水マヌの深さが90cm以下となる場合については、監督職員と協議しなければならない。

### 1-34. 提出書類

- 下請負を締結する場合は、下請等（計画・変更・結果）報告書及び施工体系図を提出し、監督職員の承諾を得なければならない。なお、下請等報告書が提出されずに下請負業者が施工している場合は、工事の一時中断もあり得る。
- 工事の完成後に提出する書類の他に、下記の工事竣工図書等を提出すること。
  - 竣工図書（下水道台帳基礎データ表、竣工図 S=1：500、詳細図）  
※竣工図書の作成については、別に定める「鶴岡市下水道工事竣工調書作成マニュアルー2020年度版ー（令和2年6月1日以降適用）」によるものとする。  
なお、下水道台帳基礎データ表は EXCEL 形式による調書とし、データファイルは別に提供する。

### ~~1-35. 施工箇所が点在する工事の間接費の積算について~~

- ~~1. 本工事は、施工箇所が点在する工事であり、共通仮設費及び現場管理費について標準積算と施工実態に乖離が考えられるため、『①：○○王区（施工箇所：○○地内）』、『②：○○王区（施工箇所：○○地内）』ごとに共通仮設費及び現場管理を算出する「施工箇所が点在する工事の積算方法の試行工事である。」~~
- ~~2. 本工事における共通仮設費の金額は、対象王区ごとに算出した共通仮設費を合計した金額とする。また、現場管理費の金額も同様に、対象王区ごとに算出した現場管理費を合計した金額とする。~~

なお、共通仮設費率及び現場管理費率の補正（施工区域、施工時期等）については、対象王区ごとに設定する。

### 1-36. その他

1. 工期は書類作成や境界立会い、調査、変更手続き、手直し等を含み検査の準備に要する日数を含むものであり、契約工期の2週間前に現場を完了するように工程管理すること。
2. 工事費の増減を伴う変更が生じた場合は、速やかに監督職員と協議すること。なお、協議を行わずに変更したものについては変更の対象とはしない。
3. 工程管理については、路線及び1日単位で進捗状況が分かるようにネットワークを作成し、フォローアップは実施計画より1週間以上遅れてしまった場合に計画するものとする。ただし、毎週金曜日より前後1週間分（前は実績、後は計画）の週間工程表を提出する場合には、バーチャートで工程管理してもよい。
4. 当該工事期間中に建設業退職金共済組合の証紙を追加購入した場合は、速やかに追加分の建設業退職金共済組合掛金収納書届を提出すること。

## 2章 土工

### 2-1. 建設発生土の埋戻し利用

本工事の埋戻しに使用する土砂は、「発生土利用基準について」（平成18年8月10日付け国官技第112号・国官総第309号・国営計第59号）に基づき建設発生土の適正な再生利用を図るものとする。なお、本工事の建設発生土を利用する場合は、仮置場までの建設発生土の運搬及び埋戻し箇所までの運搬は本工事で対応するものとする。

ただし、土質調査等の結果により利用困難と認められた時は、設計図書に関し監督職員と協議しなければならない。

#### 【土質試験】

判定指標	規格	規格値	測定頻度
コーン指数	JIS A 1228	コーン指数 800KN/m <sup>2</sup> 以上	管路埋戻土量 200 m <sup>3</sup> につき1回の割合で行う。

### 2-2. 建設発生土受入地

1. 本工事における建設発生土の受入先は、  
①加茂水族館第3駐車場（受入場所：菱津地内）とし、運搬距離 8.4km（10.8km）で計上している。また、掘削土の受入可否判断に必要な試験費については技術管理

費に計上している。 ※（ ）は 10tDT

~~ただし、農地整備工事が定める所定の基準に適合すれば搬出可能となるが、不適合の場合には、本工事における受入先を改めて監督職員が指示する。~~

~~②（一財）庄内田川建設発生土リサイクル協会とし、本工事における建設発生土は、建設発生土リサイクルプラント・ストックヤードへ要改良土として、運搬距離〇〇.〇kmで計上している。~~

~~③受注後、土砂運搬工着手まで監督職員が受入先を指示する。本発注仕様による運搬距離は〇〇.〇kmとし、整地工も計上している。ただし、受入先が定める所定の基準に適合すれば搬出可能となるが、不適合の場合には、本工事における受入先を改めて監督職員が指示する。~~

2. 本発注仕様での受入れ条件に変更がある場合は、監督職員と協議のうえ設計変更の対象とする。

## 2-3. 埋戻しの施工管理

### 1. 埋戻しについて

- (1) 埋戻しの転圧は、規定の厚さ以下で規定の締固め密度を満足すること。
- (2) 建込簡易土留めを設置した場合は、埋戻し1層毎に建込簡易土留めを引抜き、引抜き箇所を含めて入念な締固めを行い、規定の締固め密度を満足すること。

### 2. 埋戻し不良について

規定の埋戻しがされていないことが判明した場合や、建込簡易土留めの1層毎の引抜きがなされていない場合は、規定の施工がされていると判断できる資料がある区間以外については原則全て再転圧施工すること。

### 3. 鋼矢板の引抜き

- (1) 鋼矢板（軽量鋼矢板を含む。）を引抜く場合は、地中に空隙が生じないように、引抜きと同時に砂やセメントミルクで空隙を充填すること。
- (2) 空隙の充填を行わず地盤変動等が生じた場合は、施工者の責任において補修を行うこと。

## 第2編 材料編

### 第1章 一般事項

### 1-1. 指定材料の確認

受注者は、下記の工事材料を使用する場合には、その外観及び品質規格証明書等を照合して確認した資料を事前に監督職員に提出し、監督職員の確認を受けなければならない。

区 分	確認材料名	摘 要
(その他)	(発注者が指示するもの)	

### 1-2. 工事材料の確認

市が一括承認済みの骨材、二次製品等については、承認資料等の提出を省略できる。なお、使用材料は、納入された時に必ずその品質や形状について適当なものか審査し、不良品は返却等の処置を施すこと。確認時に不良品を発見した場合、手直し指示する場合があります。(例えば、二次製品、路盤材料の入替え。)

## 第2章 土木工事材料

### 2-1. 再生資材の使用

工事に使用する再生資材は次表のとおりとする。

材料名	規 格	使用箇所	摘要
再生クラッシャーラン	RC-40	基礎碎石 下層路盤 歩道路盤	
再生アスファルト合材	密粒度 As20F 密粒度 As13F	表層	仮舗装
再生改良土	修正 CBR12%以上	土工	埋戻し財 ※品質試験として 土の締固め試験 JIS A 1210 を行うこと

1. 再生クラッシャーランは、廃棄物であるコンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊を破碎、選別混合物除去、粒度調整等を行うことにより再生資源化された資材をいい、これら以外の材料（新材の碎石又はズリ等）が混合されていない状態のものをいう。
2. 下層路盤材、歩道路盤材に使用する再生碎石（RC-40）は、下記の品質基準を満足するものとする。

- ・ 修正 CBR
  - 下層路盤材 修正 C B R 4 0 % 以上
  - 歩道路盤材 修正 C B R 2 0 % 以上
- ・ 粒度範囲
  - 骨材のふるい分け試験方法 JIS A 1102 により、粒度が土木工事共通仕様書第 2 編材料編 2 - 3 - 3 表 2 - 4 に適合すること。
- ・ 塑性指数（下層路盤の場合のみ）
  - 土の液性限界・塑性限界試験 JIS A 1205 により、塑性指数 P I が 6 以下であること。
- ・ すりへり減量
  - 粗骨材のすりへり減量試験 JIS A 1121 により、すりへり量が 5 0 % 以下であること。
- ・ アスファルト塊混入率
  - 再生骨材に含まれるアスファルト塊が 7 0 % 以下であること。

## 2 - 2. 購入土

購入土は、C B R 1 2 % 以上とし監督職員の承諾を得なければならない。

## 2 - 3. 生コンクリート

工事に使用する生コンクリートは、高炉セメント（B種）を標準とする。

## 2 - 4. 山形県リサイクル認定製品

土木工事共通特記仕様書第 1 編共通編 1 - 1 - 1 2 リサイクル認定製品に規定する「山形県リサイクル認定製品」は、山形県の環境エネルギー部循環型社会推進課のホームページにより確認することができる。

<https://www.pref.yamagata.jp/kurashi/kankyo/recycle/recyclesystem/index.html>

## 2 - 5. 下水道用リサイクル製品

下水道用リサイクル製品は、硬質塩化ビニル製柵・継手があり、積極的な使用に努めることとする。なお、製品の詳細については、監督職員からの聞き取りのほか、下記記載の塩化ビニル管・継手協会のホームページにより確認することができる。

(<http://ppfa.gr.jp>)

## 2 - 6. セメントコンクリート製品

J I S 製品及び山形県コンクリート製品工業組合で一括承認を受けた製品以外の材料については、監督職員に使用承諾を提出し材料確認の立会いを行うこと。

## 2-7. 遠隔地からの建設資材調達に係る設計変更の試行工事

次の資材については、以下の調達地域等から調達することを想定しているが、安定的な確保を図るために、当該調達地域等以外から調達せざるを得ない場合には、事前に監督職員と協議するものとする。また、購入費用及び輸送費等に要した費用について、証明書類（実際の取引伝票等）を監督職員に提出するものとし、その費用について設計変更することとする。

資材名	規格	調達地域等
碎石	R C - 4 0	庄内地区
碎石	M - 4 0	庄内地区
砂	丘砂	庄内地区

# 3 編 土木工事共通編

## 第1章 総則

### 1-1. 段階確認

共通仕様書第3編土木工事編1-1-2監督職員による確認及び立会い等により指定された工種及び山形県建設工事監督技術基準の別表1に、次の工種を追加するものとする。

種別	細別	確認時期	確認項目
管路土工	路床確認	下層路盤施工前	幅・厚さ 密度・高さ
管きょ工	曲管等 オフセット確認	布設完了時 (随時)	延長(3点) 基準高
管きょ工	圧送管水圧試験 —(気密試験)—	布設完了時 —(随時)—	鶴岡市下水道圧送管 調査手順書による
バンドサイフォン 工	漏水試験 —(水張試験)—	布設完了時	
舗装工	路盤 下層路盤 上層路盤	表層施工前	幅・厚さ 密度・高さ
その他	監督職員が 指示するもの	(随時)	

### 1-2. 工事中の安全確保

土木工事にあつては、共通仕様書第1編1-1-31（施工管理）の規定に加え、以下の規定によらなければならない。

請負者は、建設工事公衆災害防止対策要綱（建設事務次官通達 平成5年1月12日）を遵守して災害の防止を図らなければならない。なお、詳細については監督職員と協議を行うこと。また、受注者は鶴岡警察署に申請する道路使用許可書の道路使用許可条件に従い施工すること。

## 第2章 一般施工

### 2-1. 仮設備

開削工法の仮設工（管路土留）の構造は建込簡易土留め及び軽量鋼矢板土留を標準とするが、これにより難しい場合は監督職員と協議すること。

### 2-2. 湧水処理に関する事項

1. 水替えが必要な場合は、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。
2. 水替えは、建込簡易土留め施工箇所は常時排水、素掘り箇所は作業時排水とする。

### 2-3. 六価クロム溶出試験

セメント及びセメント系固化材を使用した改良土埋戻しを行う場合は、受注者は改良土搬出業者による六価クロム溶出試験の実施を再確認し、試験結果を随時提出するものとする。

### 2-4. 舗装切断

舗装切断方法については、直切りカッターを標準とするが、監督職員と協議すること。  
斜め切りカッターの場合は、既設舗装と舗装との密着性を得られることにより、切断角度は30度を標準とする。

### 2-5. 濁水処理

1. 舗装版切断時に発生する濁水等については、排水吸引機能を有する切断機等により回収し、周囲に流出しないよう適正に処理を行わなければならない。なお、処分費等の必要が生じた場合には、その処理方法等について協議するものとする。

2. 「適正に処理」する際には、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、産業廃棄物の排出事業者（受注者）が産業廃棄物の処理を委託する際、排出事業者（受注者）は、その責任において、適正な処理のために必要な産業廃棄物情報（成分や性状等）を把握し、処理業者に提供することが必要である。

#### 2-6. 舗装工・マンホール工

舗装仕上がり面は現況を基本とするので、事前測量を徹底しマンホール高さを決定すること。（舗装仕上がり面に対してマンホール天端や既設施設（止水弁等）を合わせなければならない。）なお、現況舗装面がかまぼこ状などにより見直しが必要な場合は、監督職員と協議しなければならない。

#### 2-7. 瀝青材料の散布

1. プライムコートの使用量は  $1.2 \text{ l/m}^2$  を標準とする。
2. タックコートの使用量は  $0.4 \text{ l/m}^2$  を標準とする。

#### ~~2-8. 既設管改良工~~

##### ~~1. コンクリートの使用に関する事項~~

~~「下水道施設における土木コンクリート構造物の設計について」について、国土交通省都市・地域整備局下水道部下水道事業課企画専門官より平成13年8月23日付け事務連絡に伴い、本工事においてマンホールのインバート部については18N以上とする。~~

##### ~~2. 特記事項~~

##### ~~→現場工事~~

~~撤去現場作業において、既設部分に必要な加工及び工事が発生する場合は、事前に承認を得ること。~~

~~既設管をやむなく存地する場合は、管内部をモルタルで充填するなど、土砂流入させないよう施工すること。~~

#### ~~2-9. マンホール蓋交換工~~

##### ~~1. マンホール蓋（受枠）と躯体との調整方法~~

~~マンホール蓋（受枠）と躯体との調整について、調整リング及び無収縮モルタルによる調整を標準とする。~~

#### 2-10. 新管テレビカメラ調査

新管テレビカメラ調査は、「鶴岡市下水道新管テレビカメラ調査要領」に基づき工期内に実施し、品質証明（社内検査）で社内評価すること。その後、監督職員による確認を実

施する。その結果により、万が一手直しが発生した場合、工期内に実施すること。竣工検査は是正確認後に実施する。そのため、工程に余裕を持ちカメラ調査を実施すること。

#### 2-11. 設計及び施工マニュアル

鶴岡市上下水道部下水道課が発注する管路新設工事に係る設計及び施工に関する統一的な解釈及び運用、その他必要事項について、「鶴岡市下水道設計マニュアル」及び「鶴岡市下水道施工マニュアル」にて定めており、これに基づき実施するものとする。

なお、設計及び施工マニュアルは以下のホームページに掲載されている。

鶴岡市のホームページ (<https://www.city.tsuruoka.lg.jp>)

→ 暮らし

→ 下水道（下水道に関するお知らせ、使用料・負担金・各種手続きガイド、下水道関連情報）

→ 鶴岡市下水道設計・施工マニュアルについて

#### 2-12. アスファルト舗装工

県道の下層路盤の施工において、1層の仕上がり厚さは、10cm・10cm・11cm・15cmの4層仕上げとする。

#### 2-13. マンホール蓋

マンホール蓋のデザインは、三瀬処理区とする。

# 鶴岡市下水道新管テレビカメラ調査要領

## 1. 目的

本要領は、鶴岡市における下水道污水管渠新設工事(集排を含む)に係る新管テレビカメラ調査の円滑な調査を実施することを目的とする。

## 2. 調査に関する事項

### 2.1 調査の対象

調査対象は、新設するすべての下水道污水管渠(自然流下本管・取付管)を基本とする。

### 2.2 調査の方法

調査の方法及び基準は、公益社団法人日本下水道協会「下水道管路施設の点検・調査マニュアル(案)2013年6月」、公益社団法人日本下水道管路管理業協会「下水道管路管理マニュアル-2019-2019年10月」等による。

### 2.3 調査の手順

調査手順は、次のとおりとする。

- ① 本管及び取付管洗浄  
↓ 洗浄車及び高圧洗浄による洗浄
- ② 本管水滴ふき取り  
↓ 漏水と錯誤の無いようスポンジ等により水滴を除去する
- ③ 本管流下確認  
↓ 本管施工区間の最上流部インバートより清水を流し、下流側到達を確認しインバートの滞水を抜き取る
- ④ 本管テレビカメラ調査  
↓ たるみ・ずれ・破損・漏水・変形等の確認
- ⑤ 取付管カメラ調査  
↓ 1箇所当たり2L程度の清水を流し、たるみ・ずれ・破損・漏水・変形等の確認
- ⑥ 報告書取りまとめ

### 2.4 調査に関する確認事項(本管)

本管のテレビカメラ調査に関する確認事項は次のとおり。

- ① 上下流の管口について、ずれ・破損・漏水・変形等がないこと
- ② 1スパン毎のたるみを確認する
  - たるみの許容値は水深で表すものとし、20mm以下とする
  - ※ たるみの許容値に係わらず、施工においてはたるみが発生しないよう留意すること
  - ※ たるみが許容値以上であった場合、その修復は局部的ではなく前後の管の状態(高さ)とすりあわせるものとし、詳細については監督職員と協議すること
- ③ 管差込部の確認
  - 差込部の隙間は 15mm以下とする

- 差込部に凹凸がなく均一に接続されていること
- ④ 異常箇所の撮影確認
  - ずれ・破損・漏水・変形の状況が分かるよう撮影すること
- ⑤ 自在継手の使用による側面の隙間は除く

## 2.5 調査に関する確認事項(取付管)

取付管のテレビカメラ調査に関する確認事項は次のとおり。

- ① 取付管水平部のたるみを確認する
  - たるみによる明らかな滞水がないこと
- ② 異常箇所の撮影確認
  - ずれ・破損・漏水・変形の状況が分かるよう撮影すること

## 2.6 調査に関する付帯事項

テレビカメラ調査に関する付帯事項は次のとおり。

- ① 2.3のうち、①②は調査日以前に実施してもよい。
- ② 2.3のうち、③④は一連の調査として実施すること。
- ③ 2.3のうち、⑤は路線に関わらずまとめて実施してもよい。
- ④ 2.3のうち、④⑤⑥に係る費用は下水道課の負担とする。
- ⑤ 調査実施において、現場代理人又は主任技術者が立会をすること。
- ⑥ 必要に応じ発注者側担当者の立会いを求めること。

## 2.7 調査に関する留意事項

テレビカメラ調査に関する留意事項は次のとおり。

- ① 調査は工期内により実施すること。
- ② 位置及び特殊な条件下において調査が不能となる場合は、事前に監督職員と協議すること。
- ③ 調査において異常が発見された場合は、写真を添付し遅滞なく監督職員に報告すること。
- ④ 発見された異常箇所については、監督職員と協議のうえ、対応方法を決定すること。
- ⑤ 異常箇所が発見され手直し等を行った場合は、再調査をおこなうこと。
- ⑥ 完成検査前まで監督職員に報告書を提出し、確認を受けること。

## 3. 報告書に関する事項

### 3.1 調査報告書の添書

テレビカメラ調査に伴う報告書の添書は任意様式とするが、添書には下記の内容を記載すること。

- ① 添書の名称は「工事名 調査報告書」とする。
- ② 施工業者名を記載する。
- ③ 調査管渠及び調査の品質を証明するものとして、調査表に「本調査の対象管渠及び調査内容の品質を証明します」と記載し、調査会社名及び調査担当責任者名に押印する。

### 3.2 調査図面の添付

テレビカメラ調査に伴う図面は次のとおり作成すること。

- ① 工事区域全体が分かる図面に、テレビカメラ調査箇所を記した位置図を添付すること。
- ② 平面図に路線毎の管番号及び、管番号毎に連番を付した公共汚水ますの位置を記載すること。

### 3.3 報告書

テレビカメラ調査に係る報告書は次のとおりとする。

なお、本報告書は、発注者と施工業者それぞれ1部を保管するものとする。

- ① 報告書添書(3.1による。)  
(調査表)
- ② 管渠調査表  
(調査画像等)
- ③ 記録データ一式(DVD等)  
(その他)
- ④ 異常箇所一覧及び写真(異常箇所がある場合。)
- ⑤ 異常箇所打合せ協議記録(異常箇所がある場合。)

## 4. その他

### 4.1 調査会社及び調査技術者

テレビカメラ調査における調査会社及び調査技術者は次のとおりとする。

- ① 調査を実施する会社は、市内に本管及び取付管カメラを所有している会社を基本とする。
- ② 調査技術者は、公益社団法人日本下水道管路管理業協会下水道管路管理技士のうち、総合技士又は主任技士又は専門技士(調査)とする。

### 4.2 受託工事の取扱

受託工事に伴うテレビカメラ調査は次のとおり。

- ① 受託工事においては本要領を準用する。
- ② 調査に要する費用は、受託者が負担する。

### 4.3 委託工事の取扱

委託工事に伴うテレビカメラ調査は次のとおり。

- ① 委託工事においては本要領を準用する。
- ② 調査に要する費用は、下水道課が負担する。

### 4.4 財産譲与の取扱

下水道管路施設の財産譲与に伴うテレビカメラ調査は次のとおり。

- ① 財産譲与においては本要領を準用する。
- ② 調査に要する費用は、譲与者が負担する。

### 4.5 物件設置の取扱(R3.6改定)

物件設置工事に伴うテレビカメラ調査は次のとおり。

- ① 物件設置工事においては、本要領を準用する。

- ② 調査に要する費用は、開発事業者が負担する。
- ③ 調査は、管路施設の引渡し前に実施する。
- ④ 調査報告書は 2 部作成し、1 部は物件設置完成通知書に添付、1部は竣工図と共に下水道課へ提出する。
- ⑤ 竣工図は別紙「下水道工事竣工調書作成マニュアル」による。
- ⑥ 物件設置における調査報告書は、添書(3.1 による。)と次の調書報告書とする。

(調査方法及び基準)

調査方法及び基準は本管テレビカメラ調査及び取付管テレビカメラ調査を基本とするが、下記の条件においては本管では管口調査、取付管では管内目視調査とすることができる。

	調査方法	調査実施基準
本 管	管口調査	・整備する本管すべての区間延長が 30m 未満である場合
	本管テレビカメラ調査	・上記以外の場合 ※複数スパンで整備された本管の内、一部の区間が 30m 未満であっても一連としてカメラ調査を実施する
取付管	管内目視調査 (下水管点検ミラー等を用いて調査、写真撮影)	・単独で設置した取付管の水平延長が 2m 未満かつ公共汚水柵が横型三方合流型の場合 ※本管側曲管部の接続状況が確認できること
	取付管テレビカメラ調査	・上記以外の場合 ※複数設置された取付管の一つが上記に該当する場合であっても一連としてカメラ調査を実施する

附則

平成 29 年 04 月 01 日 試行

令和 02 年 04 月 01 日 初版

令和 03 年 07 月 01 日 改定

令和 7 年度

鶴岡市集落排水事業  
三瀬地区管路施設105～148号新設工事

数量総括表・数量計算書(補助)

鶴岡市 由良 地内ほか

数量総括表

上段：当初  
下段：変更

工事区分	工種	種別	細別	規格	単位	数量	計算式	摘要
管路(補助)								
	管きょ工(開削)							
		管路土工						
			管路掘削	掘削 BH0.28m3	m3	36	35.7 = 35.7	土工集計表
				掘削 BH0.08m3	m3	29	28.5 = 28.5	土工集計表
				機械掘削工 BH0.28m3	m3	33	33.2 = 33.2	土工集計表
				機械掘削工 BH0.08m3	m3	26	25.8 = 25.8	土工集計表
			管路埋戻	機械投入埋戻工 管保護部 BH0.28m3 再生改良土	m3	11	10.7 = 10.7	土工集計表
				機械投入埋戻工 管保護部 BH0.08m3 再生改良土	m3	8	8.2 = 8.2	土工集計表
				機械投入埋戻工 埋戻部 BH0.28m3 再生改良土	m3	34	34.1 = 34.1	土工集計表
				機械投入埋戻工 埋戻部 BH0.08m3 再生改良土	m3	38	37.7 = 37.7	土工集計表
			発生土処理	土砂等運搬 4tDT L=11.1km 現場～改良センター	m3	36	35.7 = 35.7	
				土砂等運搬 2tDT (BH0.08m3) L=1.0km 現場～仮置き場	m3	29	28.5 = 28.5	
				仮置き土積み込み BH0.8m3	m3	29	28.5 = 28.5	
				土砂等運搬 10tDT L=9.8km 現場～加茂水族館第3駐車場	m3	29	28.5 = 28.5	
				発生土運搬工 4tDT L=11.1km 現場～改良センター	m3	27	90.7-35.7-28.5 = 26.5	
				発生土運搬工 4tDT L=8.4km 現場～加茂水族館第3駐車場	m3	7	33.2-26.5 = 6.7	
				土砂等運搬 2tDT (BH0.08m3) L=1.0km 現場～仮置き場	m3	38	37.7 = 37.7	

数量総括表

上段：当初  
下段：変更

工事区分	工種	種別	細別	規格	単位	数量	計算式	摘要
				仮置き土積込み BH0.8m3	m3	38	37.7 = 37.7	
				土砂等運搬 10tDT L=9.8km 現場～加茂水族館第3駐車場	m3	38	37.7 = 37.7	
				建設発生土処理	m3	91	10.7+8.2+34.1+37.7 = 90.7	
		管布設工						
			リップ付硬質塩化ビニル管	リップ付硬質塩化ビニル管布設工 PRPφ200	m	69	69.2 = 69.2	管きょ数量表
				(材料)リップバンド PRPφ200 5°	個	2	2.0 = 2.0	数量計算書
				(材料)リップバンド PRPφ200 10°	個		0.0	数量計算書
				(材料)リップバンド PRPφ200 22° 1/2	個		0.0	数量計算書
			埋設表示	下水道用埋設表示シート 2倍 150mm×50m	m	69	69.2 = 69.2	管きょ数量
				埋設表示テープ B30mm×t0.15mm±0.03mm	m	97	96.7 = 96.7	管きょ数量
		管基礎工						
			砕石基礎	砕石基礎設置 機械施工 RC-40 t=15cm	m3	10	9.9 = 9.9	土工集計表・計算書
				(材料)砕石 RC-40	m3	12	9.9*1.2 = 11.9	土工集計表・計算書
		管路土留工						
			建込簡易土留	建込工 掘削深1.5m以下	m	10	9.8 = 9.8	工程算出表
				建込工 掘削深2.0m以下	m	33	32.5 = 32.5	工程算出表
				建込工 掘削深2.5m以下	m	29	29.2 = 29.2	工程算出表
				引抜工 掘削深1.5m以下	m	10	9.8 = 9.8	工程算出表

数量総括表

上段：当初  
下段：変更

工事区分	工種	種別	細別	規格	単位	数量	計算式	概要
				引抜工 掘削深2.0m以下	m	33	32.5 = 32.5	工程算出表
				引抜工 掘削深2.5m以下	m	29	29.2 = 29.2	工程算出表
				建込簡易土留 賃料	式	1	1.0 = 1.0	建込簡易土留賃料算出表
		開削水替工						
			開削水替	ポンプ運転 口径50mm 商用電源 常時排水	式	1	1.0 = 1.0	水替日数数量計算書
				ポンプ設置・撤去	現場	1	1.0 = 1.0	水替日数数量計算書
	マンホール工							
		組立マンホール						
			1号マンホール	組立マンホール工(基礎材含) 1号 マンホール深3m以下	箇所	4	4.0 = 4.0	1号マンホール数量計算書
				底部工 1号	箇所	4	4.0 = 4.0	1号マンホール数量計算書
				(材料費)1号マンホール 底盤	個	4	4.0 = 4.0	1号マンホール数量計算書
				(材料費)1号マンホール 躯体 900×1500mm	個	3	3.0 = 3.0	1号マンホール数量計算書
				(材料費)1号マンホール 躯体 900×1800mm	個	1	1.0 = 1.0	1号マンホール数量計算書
				(材料費)1号マンホール 直壁 900×600mm	個	1	1.0 = 1.0	1号マンホール数量計算書
				(材料費)1号マンホール 斜壁 600×900×300mm	個	3	3.0 = 3.0	1号マンホール数量計算書
				(材料費)1号マンホール 斜壁 600×900×450mm	個	1	1.0 = 1.0	1号マンホール数量計算書
				(材料費)調整リング 600×50mm	個	2	2.0 = 2.0	1号マンホール数量計算書
				(材料費)調整リング 600×100mm	個	2	2.0 = 2.0	1号マンホール数量計算書

数量総括表

上段：当初  
下段：変更

工事区分	工種	種別	細別	規格	単位	数量	計算式	摘要
				(材料費)マンホール調整金具 調整高25mmまで	組	2	2.0 = 2.0	1号マンホール数量計算書
				(材料費)マンホール調整金具 調整高45mmまで	組	2	2.0 = 2.0	1号マンホール数量計算書
				(材料費) 鑄鉄製マンホール蓋 φ600 T-14 マーク入り 浮上防止 かぎ付	組	2	2.0 = 2.0	1号マンホール数量計算書
				(材料費) 鑄鉄製マンホール蓋 φ600 T-25 マーク入り 浮上防止 かぎ付	組	2	2.0 = 2.0	1号マンホール数量計算書
			内副管	内副管取付工 段差1.0m未満	箇所	1	1.0 = 1.0	内副管設置工数量計算書
				内副管取付工 段差1.0m以上1.5m未満	箇所	2	2.0 = 2.0	内副管設置工数量計算書
				(材料費) 楕円 220×120 H2000 スリム内副管マンホール継手用立て管	本	1	1.0 = 1.0	内副管設置工数量計算書
				(材料費) 1号用 200×150 点検口付スリム内副管マンホール継手	個	3	3.0 = 3.0	内副管設置工数量計算書
				(材料費) 150mm用 スリム内副管マンホール継手用エルボ	個	3	3.0 = 3.0	内副管設置工数量計算書
				(材料費) 150mm用 スリム内副管用固定バンド	個	3	3.0 = 3.0	内副管設置工数量計算書
	管きよ工 (小口径推進) (管径200mm)							
		低耐荷力オーガ推 進						
			推進用硬質塩化ビ ニル管	(材料) スパイラル継手付き直管 φ200 1.0m管 先頭管	本	1	1.0 = 1.0	推進集計表
				(材料) スパイラル継手付き直管 φ200 1.0m管 標準管	本	19	19.0 = 19.0	推進集計表
				(材料) スパイラル継手付き直管 φ200 1.0m管 最終管	本	1	1.0 = 1.0	推進集計表
				推進工_低耐荷力オーガ方式 【NO. 148-19⇒NO. 148-18】	m	20.2	20.22 = 20.2	推進工集計表
				スクリュコンベヤ類撤去工_低耐荷力オーガ方式 【NO. 148-19⇒NO. 148-18】	m	20.2	20.22 = 20.2	推進工集計表
			発生土処理	建設汚泥処理 L=32.9km 現場～安藤組	m3	0.7	0.7 = 0.7	推進工集計表

数量総括表

上段：当初  
下段：変更

工事区分	工種	種別	細別	規格	単位	数量	計算式	摘要
		立坑内管布設工						
			硬質塩化ビニル管	硬質塩化ビニル管設置工 SSPSφ200	m	1.3	1.03+0.3 = 1.3	推進工集計表
				小口径推進用マンホール可とう継手 φ200	箇所	1	1.0 = 1.0	推進工集計表
		仮設備工(小口径)						
			鏡切り	鏡切工_低耐荷力オーガ方式 φ200	箇所	2	2 = 2.0	推進工集計表
			推進設備等設置撤去	推進設備工 低耐荷力オーガ方式	箇所	1	1 = 1.0	推進工集計表
				先端体据付撤去工 低耐荷力オーガ方式	箇所	1	1 = 1.0	推進工集計表
		さや管推進工						
			さや管推進 (IDN工法参考) 【材料】	鋼管 L=500 φ300	本	16	1+14+1 = 16.0	推進工集計表
				スペーサー φ200用	個	4	4 = 4.0	推進工集計表
				硬質塩化ビニル管 VPφ200 L=1000	本	9	9 = 9.0	推進工集計表
				塩ビ管 ソケット VPφ200	個	8	8 = 8.0	推進工集計表
				先端加工費 礫質土	箇所	1	1 = 1.0	
			推進機組立据付		箇所	1	1.0 = 1.0	推進工集計表
			鏡切り工	軽量鋼矢板	箇所	2	2.0 = 2.0	推進工集計表
			さや管推進工	鋼管 φ300	m	7.8	7.8 = 7.8	推進工集計表
			排土工	φ300	m	7.8	7.8 = 7.8	推進工集計表
			推進機撤去工		箇所	1	1 = 1.0	推進工集計表

数量総括表

上段：当初  
下段：変更

工事区分	工種	種別	細別	規格	単位	数量	計算式	概要
			MCｸﾞﾗウト注入工		m3	0.3	= 0.3	推進工集計表
			塩ビ管挿入工	VPφ200	m	7.8	= 7.8	推進工集計表
			発生土処理	汚泥吸排水車運搬工 L=32.9km 現場～安藤組	m3	0.6	= 0.6	推進工集計表
				建設泥土処理費	m3	0.6	= 0.6	推進工集計表
		立坑内管布設工						
			硬質塩化ビニル管	硬質塩化ビニル管設置工 VPφ200	m	0.6	= 0.3+0.3	推進工集計表
				マンホール可とう継手 φ200	箇所	2	= 2.0	
	立坑工							
		鋼製ケーシング式						
			鋼製ケーシング圧入掘削	圧入掘削積込 礫質土 N≤30 φ2000	m	3.5	= 3.5	ケーシング立坑集計表
				ケーシング溶接 φ2000 L=6.3m/箇所	箇所	1	= 1.0	ケーシング立坑集計表
				ケーシング引上げ φ2000 L=0.90m/箇所	箇所	1	= 1.0	ケーシング立坑集計表
				ケーシング撤去 φ2000 L=1.43m/箇所	箇所	1	= 1.0	ケーシング立坑集計表
			鋼製立坑埋戻	機械投入埋戻工 再生改良土 BH0.28m3 (平積0.2m3)	m <sup>3</sup>	10	= 10.1	ケーシング立坑集計表
			発生土処理	発生土運搬工 4tDT L=11.1km 現場～改良センター	m <sup>3</sup>	10	= 10.1	ケーシング立坑集計表
				発生土運搬工 4tDT L=8.4km 現場～加茂水族館第3駐車場	m <sup>3</sup>	2	= 12-10.1	ケーシング立坑集計表
				建設発生土処理	m <sup>3</sup>	10	= 10.1	ケーシング立坑集計表
			底盤コンクリート	底盤コンクリート打設 30-18-20	m <sup>3</sup>	3.1	= 3.1	ケーシング立坑集計表

数量総括表

上段：当初  
下段：変更

工事区分	工種	種別	細別	規格	単位	数量	計算式	概要
			圧入掘削設備	機械設置撤去工 圧入機 φ2000	回	1	1.0 = 1.0	ケーシング立坑集計表
			鋼製ケーシング存置	刃先製作取付費 φ2000	個	1	1.00 = 1.0	ケーシング立坑集計表
				鋼製ケーシング φ2000 厚12mm	m	2.6	2.60 = 2.6	ケーシング立坑集計表
			鋼製ケーシング損料等	仮設ケーシング φ2000 L=2.0~2.5m	回	1	1.00 = 1.0	ケーシング立坑集計表
			現場発生品運搬	発生品運搬 L=11.8km以下 現場~大洲商店	t	0.9	0.90 = 0.9	
				スクラップ費 ^t-H1	t	0.9	0.90 = 0.9	推進工集計表
			立坑排水	うわ水排水工	箇所	1	1.00 = 1.0	推進工集計表
			排水運搬処理	スライム処理工	箇所	1	1.00 = 1.0	
				汚泥吸排車運搬工 L=32.9km 現場~安藤組	m <sup>3</sup>	1.2	1.2 = 1.2	推進工集計表
				建設汚泥処理費	m <sup>3</sup>	1.2	1.2 = 1.2	
		路面覆工						
			円形覆工板	円形覆工板設置工 φ2000	箇所	1	1 = 1.0	ケーシング立坑集計表
				円形覆工板撤去工 φ2000	箇所	1	1 = 1.0	ケーシング立坑集計表
				円形覆工板賃料 φ2000	式	1	1 = 1.0	覆工板賃料算出表
		軽量鋼矢板土留工						
			管路掘削	掘削 BH0.28m3	m3	6	2.1+2.1+2.2 = 6.4	立坑集計表
				機械掘削工 BH0.28m3	m3	10	4.2+3+2.9 = 10.1	立坑集計表
			管路埋戻	機械投入埋戻工 管保護部 BH0.28m3 再生改良土	m3	8	3+2.2+2.7 = 7.9	立坑集計表

数量総括表

上段：当初  
下段：変更

工事区分	工種	種別	細別	規格	単位	数量	計算式	概要
			発生土処理	土砂等運搬 4tDT L=11.1km 現場～改良センター	m3	6	6.4 = 6.4	
				発生土運搬工 4tDT L=11.1km 現場～改良センター	m3	2	7.9-6.4 = 1.5	
				発生土運搬工 4tDT L=8.4km 現場～加茂水族館第3駐車場	m3	9	10.1-1.5 = 8.6	
				建設発生土処理	m3	8	7.9 = 7.9	
			軽量鋼矢板土留	建込工 矢板長2.5m以下 BH0.28m3	m	12	6+6 = 12.0	立坑集計表
				建込工 矢板長3.0m以下 BH0.28m3	m	6	6.0 = 6.0	立坑集計表
				引抜工 矢板長2.5m以下 BH0.28m3	m	12	6+6 = 12.0	立坑集計表
				引抜工 矢板長3.0m以下 BH0.28m3	m	6	6.0 = 6.0	立坑集計表
				土留支保工 軽量金属支保工	m	18	12+6 = 18.0	
				軽量鋼矢板土留 賃料	式	1	1.0 = 1.0	
				底盤コンクリート打設 18-8-40 t=100	m3	0.4	0.2+0.2 = 0.4	立坑集計表
				現場発生品運搬 発生品運搬 L=11.8km以下 現場～大洲商店	t	0.3	0.1+0.1+0.1 = 0.3	
				スクラップ費	t	0.3	0.1+0.1+0.1 = 0.3	
				軽量鋼矢板損料等 LSP-2型 L=2.5～3.0m	t	0.36	0.0148*(2.5*3+2.5*3+3.0*3) = 0.355	
	付帯工							
		舗装版破砕工						
			舗装版切断	舗装版切断 As 15cm以下	m	169	142.8+26.4 = 169.2	土工集計表, 推進工集計表
			舗装版破砕	舗装版破砕 As 15cm以下	m2	50	38.4+11.2 = 49.6	土工集計表, 推進工集計表

数量総括表

上段：当初  
下段：変更

工事区分	工種	種別	細別	規格	単位	数量	計算式	摘要
				舗装版破碎 As 5cm以下 小規模	m2	29	29.4 = 29.4	土工集計表
			殻運搬処理	殻運搬・処理 As L=25.6km 現場～日本海	m3	3	2.7+0.7 = 3.4	土工集計表, 推進工集計表
				殻運搬・処理 As L=25.6km 現場～日本海 小規模	m3	1	0.9 = 0.9	土工集計表
		舗装仮復旧工						
			下層路盤	RC-40 t=46cm	m2	47	38.4+8.9 = 47.3	土工集計表, 推進工集計表 県道車道N4
			上層路盤 歩道路盤	M-40 t=10cm	m2	32	29.4+2.3 = 31.7	土工集計表, 推進工集計表 県道歩道
			表層	歩道 仮舗装 再生密粒度アスコン13F t=3cm	m2	32	29.4+2.3 = 31.7	土工集計表, 推進工集計表 県道歩道
				車道 仮舗装 再生密粒度アスコン20F t=5cm	m2	47	38.4+8.9 = 47.3	土工集計表, 推進工集計表 県道車道N4
	仮設工							
		交通管理工						
			交通誘導員	交通誘導員B 開削、推進、ケーシング	人	102	102 = 102.0	交通誘導員算定表
共通仮設								
	共通仮設費							
		運搬費						
			仮設材運搬	仮設材運搬(往路)	式	1	1.0 = 1.0	積上運搬費数量計算書
				仮設材運搬(復路)	式	1	1.0 = 1.0	積上運搬費数量計算書

数量総括表

上段：当初  
下段：変更

工事区分	工種	種別	細別	規格	単位	数量	計算式	概要
				仮設材積込・取卸 基地～現場	式	1	1.0 = 1.0	積上運搬費数量計算書
				仮設材積込・取卸 現場～基地	式	1	1.0 = 1.0	積上運搬費数量計算書
		準備費						
			試掘	県道車道部 (N4)	箇所	1	1 = 1.0	
				県道歩道部	箇所	1	1 = 1.0	
		事業損失防止施設費						
			工損調査	工損調査(5軒/日)	軒	2	2 = 2.0	
		技術管理費						
			土質試験	土の一軸圧縮試験 JIS A 1216	試料	1	(71.4)/100 = 0.7	
				締めめた土のコーン指数試験	試料	1	(90.7+10.1+7.9)/200 = 0.5	
			本管TVカメラ調査工	内径150～800mm未満 新管 0.05回/m以下	m	97	69.2+20.2+7.8 = 97.2	
			報告書作成	本管TVカメラ調査 新管 0.05回/m以下	m	97	97.2 = 97.2	



# 1号マンホール(材料) 数量計算書

上段：当初  
下段：変更

細別	規格	算式	数量
(材料)			
底盤		4 = 4.00	4.00 個
躯体	H=1800	1 = 1.00	1.00 個
	H=1500	3 = 3.00	3.00 個
	H=1200		個
	H=900		個
	H=600		個
直壁	H=1800		個
	H=1500		個
	H=1200		個
	H=900		個
	H=600	1 = 1.00	1.00 個
	H=300		個
斜壁	H=600		個
	H=450	1 = 1.00	1.00 個
	H=300	3 = 3.00	3.00 個
調整リング	φ 600 H=150		個
	φ 600 H=100	2 = 2.00	2.00 個
	φ 600 H=50	2 = 2.00	2.00 個
調整金具	45mmまで	2 = 2.00	2.00 組
	25mmまで	2 = 2.00	2.00 組
人孔蓋	φ 600 T-25	2 = 2.00	2.00 組
	φ 600 T-14	2 = 2.00	2.00 組

# 積上運搬費 数量計算書

上段：当初  
下段：変更

細別	規格	算式	数量
(往路)			
建込簡易土留	H=1.5~2.5m	14.6 = 14.60	14.6 t
軽量鋼矢板		3.6 = 3.60	3.6 t
円形覆工板	φ2000用	1.3 = 1.30	1.3 t
仮設ケーシング	φ2000 0.615t/m	0.615*4.6 = 2.83	2.8 t
往路重量計		14.6+3.6+1.3+2.8 = 22.30	22.3 t
(復路)			
建込簡易土留	H=1.5~2.5m	14.6 = 14.60	14.6 t
軽量鋼矢板		3.6-0.3 = 3.30	3.3 t
円形覆工板	φ2000用	1.3 = 1.30	1.3 t
仮設ケーシング	φ2000 0.615t/m	0.615*2 = 1.23	1.2 t
復路重量計		14.6+3.3+1.3+1.2 = 20.40	20.4 t
建込簡易土留	土留面積 (片側)	1.5*(6.5+3.4)+2*(17.2+15.3)+2.5*(16.8+12.4) = 152.85	152.9 m <sup>2</sup>
土留延長		6.5+3.4+17.2+15.3+16.8+12.4 = 71.60	71.6 m
平均土留高	土留面積÷延長	152.9/71.6 = 2.14	2.1 m
土留材重量	2.0m 基材セット30m	14.6 = 14.60	14.6 t
軽量鋼矢板	軽量鋼矢板 2.5m/枚	0.9+0.9 = 1.80	1.8 t
	軽量鋼矢板 3.0m/枚	1.1 = 1.10	1.1 t
	腹起し 2.0m/本	24*15.1*0.001 = 0.36	0.4 t
	水圧サポート 1100~1800mm	24*14.5*0.001 = 0.35	0.3 t
計		1.8+1.1+0.4+0.3 = 3.60	3.6 t

土工集計表(建込簡易土留)

上段：当初  
下段：変更

			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	合計			
			148号路線	148号路線	148号路線	148号路線	148号路線	148号路線													
掘削	予掘	BH0. 28m3	5.70	14.84	15.20														35.7		
		BH0. 08m3				14.05	3.09	11.38												28.5	
	本掘	BH0. 28m3	2.72	18.05	12.39															33.2	
		BH0. 08m3				10.29	1.21	14.34												25.8	
埋戻	管保護部	BH0. 28m3 再生改良土	1.71	4.42	4.54														10.7		
		BH0. 28m3 丘砂																			
		BH0. 08m3 再生改良土				4.03	0.90	3.27												8.2	
	埋戻部	BH0. 28m3 再生改良土	2.87	18.43	12.79															34.1	
		BH0. 08m3 再生改良土				16.14	2.50	19.08												37.7	
管基礎	碎石	0.86	2.39	2.39	2.11	0.41	1.70												9.9		
	丘砂																				
舗装撤去	切断	AS t≤15cm	12.90	33.60	34.40	30.50	6.70	24.70												142.8	
		Co t≤15cm																			
	破碎	AS t≤10cm	6.13	15.96	16.34																38.4
		As t≤10cm(小規模)				14.49	3.18	11.73													29.4
	As 運搬処理	0.43	1.12	1.14																2.7	
	As 運搬処理(小規模)				0.43	0.10	0.35													0.9	
舗装復旧	下層	RC-40 t=15cm																			
		RC-40 t=46cm	6.13	15.96	16.34																38.4
		RC-40 t=64cm																			
	上層	M-40 t=10cm				14.49	3.18	11.73													29.4
		M-40 t=15cm																			
		RC-40 t=10cm																			
		RC-40 t=17cm																			
	表層	As t=3cm				14.49	3.18	11.73													29.4
		As t=5cm	6.13	15.96	16.34																38.4

土工計算書(建込簡易土留)

当初：黒字(左欄)  
変更：赤字(右欄)

番号			1	2	3	4
路線番号			148号路線	148号路線	148号路線	148号路線
本管	管種		PRP φ 200	PRP φ 200	PRP φ 200	PRP φ 200
延長	区間		6.45	16.80	17.20	15.25
下流	測点		NO. 148-18	NO. 148-20	NO. 148-21	NO. 148-21+15.25
		1号MH			1号MH	
	地盤高		20.99	18.83	17.69	15.89
	管底高		19.782	17.010	16.309	14.602
上流	測点		NO. 148-17+15.55	NO. 148-19	NO. 148-20	NO. 148-21-1 NO
		1号MH				1号MH
	地盤高		21.34	19.82	18.83	17.15
	管底高		19.975	17.694	17.010	15.334
掘削	厚	基礎	0.15	0.15	0.15	0.15
		既設舗装厚	0.07	0.07	0.07	0.03
	幅	基礎下	0.95	0.95	0.95	0.95
舗装撤去	切断回数		1	1	1	1
舗装復旧	復旧方法		仮復旧	仮復旧	仮復旧	仮復旧
	復旧断面		県道N4	県道N4	県道N4	県道歩道
舗装復旧厚	下層		0.46	0.46	0.46	
	上層(歩道路盤)					0.10
	基層					
	中間層					
	表層		0.05	0.05	0.05	0.03
材料	埋戻	管保護部	再生改良土	再生改良土	再生改良土	再生改良土
		埋戻部	再生改良土	再生改良土	再生改良土	再生改良土
	管基礎		碎石	碎石	碎石	碎石
延長	MH分減延長	下流分	0.45		0.45	
		上流分				0.45
	管渠		6.00	16.80	16.75	14.80
平均掘削深		1.44	2.13	1.76	1.71	
建込簡易土留高		H=1.5m	H=2.5m	H=2.0m	H=2.0m	
掘削	厚	予掘	0.93	0.93	0.93	0.97
		本掘	0.44	1.13	0.76	0.71
	幅		0.95	0.95	0.95	0.95
	土量	予掘	5.70	14.84	15.20	14.05
本掘		2.72	18.05	12.39	10.29	
埋戻	厚	管保護部	0.32	0.32	0.32	0.32
		埋戻部	0.47	1.16	0.78	1.11
	幅		0.95	0.95	0.95	0.95
	土量	管保護部	1.71	4.42	4.54	4.03
		埋戻部	2.87	18.43	12.79	16.14
		計	4.59	22.86	17.33	20.17
管基礎	幅		0.95	0.95	0.95	0.95
	数量		0.86	2.39	2.39	2.11
舗装撤去	幅		0.95	0.95	0.95	0.95
	切断		12.90	33.60	34.40	30.50
	破碎		6.13	15.96	16.34	14.49
	運搬処理		0.43	1.12	1.14	0.43
舗装復旧	下層	幅	0.95	0.95	0.95	
		面積	6.13	15.96	16.34	
	上層・歩道路盤	幅				0.95
		面積				14.49
	表層	幅	0.95	0.95	0.95	0.95
		面積	6.13	15.96	16.34	14.49

土工計算書(建込簡易土留)

当初：黒字(左欄)  
変更：赤字(右欄)

番号			5	6	7	8
路線番号			148号路線	148号路線		
本管	管種		PRP φ 200	PRP φ 200		
延長	区間		3.35	12.35		
下流	測点		NO. 148-22	NO. 148-23		
		1号MH				
	地盤高		15.60	14.52		
	管底高		14.442	12.699		
上流	測点		NO. 148-21-1 +15.25	NO. 148-22		
		1号MH				
	地盤高		15.89	15.60		
	管底高		14.602	13.292		
掘削	厚	基礎	0.15	0.15		
		既設舗装厚	0.03	0.03		
	幅	基礎下	0.95	0.95		
舗装撤去	切断回数		1	1		
舗装復旧	復旧方法		仮復旧	仮復旧		
	復旧断面		県道歩道	県道歩道		
舗装復旧厚	下層					
	上層(歩道路盤)		0.10	0.10		
	基層					
	中間層					
	表層		0.03	0.03		
材料	埋戻	管保護部	再生改良土	再生改良土		
		埋戻部	再生改良土	再生改良土		
	管基礎		碎石	碎石		
延長	MH分減延長	下流分	0.45			
		上流分		0.45		
	管渠		2.90	11.90		
平均掘削深			1.38	2.22		
建込簡易土留高			H=1.5m	H=2.5m		
掘削	厚	予掘	0.97	0.97		
		本掘	0.38	1.22		
	幅		0.95	0.95		
	土量	予掘	3.09	11.38		
		本掘	1.21	14.34		
埋戻	厚	管保護部	0.32	0.32		
		埋戻部	0.79	1.63		
	幅		0.95	0.95		
		管保護部	0.90	3.27		
	土量	埋戻部	2.50	19.08		
		計	3.40	22.35		
管基礎	幅		0.95	0.95		
	数量		0.41	1.70		
舗装撤去	幅		0.95	0.95		
	切断		6.70	24.70		
	破碎		3.18	11.73		
	運搬処理		0.10	0.35		
舗装復旧	下層	幅				
		面積				
	上層・歩道路盤	幅	0.95	0.95	0.95	
		面積	3.18	11.73		
	表層	幅	0.95	0.95	0.95	
		面積	3.18	11.73		



自然流下管PRP φ200

位置	リブバンド管				マンホール削孔 3号 φ200	マンホール用可とう継手 拡張バンド φ200
	5°	10°	22° 1/2	15°		
148-20	1					
148-21-1 +15.25	1					
(当初) 合計	2					
(変更) 合計						





## 立坑集計表

## 軽量鋼矢板・ケーシング立坑

当初：黒字 変更：赤字

番号		1	2	3	4	5	計	
測点		148-18	148-19	148-21	148-21-1		計4ヶ所	
掘削	延長	1.50	2.09	1.50	1.50			
	幅	1.50	2.09	1.50	1.50			
	掘削深計	2.880	3.567	2.338	2.310			
<b>建込簡易土留高</b>		<b>H=3.0m</b>	<b>ケーシング</b>		<b>H=2.5m</b>			
本管 (推進)	管種	SSPSφ200	SSPSφ200	VPφ200	VPφ200			
	延長(立坑内)	0.23	2.09	0.23	0.23			
	基礎	丘砂	丘砂	丘砂	丘砂			
	管底高	流入	19.782	19.735	16.309	15.354		
流出		18.590	19.653	15.800	15.334			
人孔		1号MH		1号MH	1号MH			
地盤高		20.99	19.82	17.69	17.15			
立坑基礎	碎石基礎 t=15cm RC-40							
	基礎コンクリート t=10cm 18-8-40	0.23	3.43		0.23		3.88	
舗装	既設舗装厚		0.07	0.07	0.07	0.03		
	撤去	幅	1.50	2.10	1.50	1.50		
		切斷	6.00	8.40	6.00	6.00		26.40
		破砕	2.25	4.41	2.25	2.25		11.16
		敷	0.16	0.31	0.16	0.07		0.69
	復旧厚	表層	0.05	0.05	0.05	0.03		0.18
		中間層						
		基層						
		上層				0.10		0.10
	復旧面積	下層	0.46	0.46	0.46			1.38
		表層	2.25	4.41	2.25	2.25		11.16
		中間層						
		基層						
	合計	上層				2.25		2.25
下層		2.25	4.41	2.25			8.91	
表層								
中間層								
空伏Go	流入	幅						
		高さ						
		小計						
	流出	幅						
		高さ						
		小計						
合計								
掘削	厚	予掘	0.93		0.94	0.97		
		本掘	1.88	3.51	1.34	1.31		
	幅	1.50	2.09	1.50	1.50			
	土量	予掘	2.09		2.12	2.18		
本掘		4.23	12.03	3.01	2.95			
埋戻し	厚	2.27	0.58	1.73	2.08			
	断面積	1.38	3.43	1.38	1.38			
	控除(本管、管基礎等)	0.15	0.42	0.15	0.15			
	計	3.00	1.57	2.25	2.73		9.54	
管基礎	幅	1.50	2.09	1.50	1.50			
	数量	0.15	0.34	0.15	0.15		0.79	
発生土運搬		6.32	12.03	5.13	5.13		28.60	
床付け								
	準備掘削深	0.93		0.93	0.97		2.83	

ケーシング集計表

φ2000

当初：黒字(左欄)  
変更：赤字(右欄)

番号			1	2	3	計	
測点			148-19 発進立坑			計1ヶ所	計1ヶ所
地盤高			19.82				
設置人孔							
ケーシング	底盤高		17.253				
	掘削底面高		16.253				
本管 (推進)	管種		SSPS φ200				
	延長 (立坑内)	流入	1.000				
		流出	1.000				
	管底高	流入	17.735				
流出		17.653					
既設舗装厚			0.07				
舗装 復旧厚	下層		0.46				
	上層(歩道路盤)						
	基層						
	中間層						
	表層		0.05				
圧入掘削	今回施工or施工済		今回施工				
	床付面		地下水位以下				
	準備掘削深		0.07				
	粘性土 (m)	N≤5					
		5<N≤30					
	砂質土 (m)	N≤30					
		30<N≤50					
	礫質土 (m)	N≤30	3.507				
		30<N≤50					
	粗石混り土						
	巨石混り土						
軟岩 I							
軟岩 II							
ケーシング	割付 (m)	余裕高	0.067				
		先端	2.00				2.00
		中間					
		最終	0.60				0.60
溶接 (m)		6.28				6.28	
圧入機械	退避・再設置	1				1	
	設置 (箇所)	1				1	
覆工板	撤去 (箇所)	1				1	
	発生土運搬 (m3)	11.99				11.99	
空伏Co	流入	幅					
		高さ					
		小計					
	流出	幅					
		高さ					
小計							
合計 (m3)							
埋戻し	厚	3.06					
	断面積	3.43					
	控除(空伏Co, 副管等)	0.42					
	計 (m3)	10.06				10.06	
管基礎	厚	0.10					
	数量	0.34					
舗装撤去	切断 (m)	8.40				8.40	
	破碎 (m2)	4.41				4.41	
	運搬処理 (m3)	0.31				0.31	
舗装復旧	下層 (m2)	4.41				4.41	
	上層(歩道路盤) (m2)						
	基層						
	中間層						
表層 (m2)		4.41				4.41	
圧入掘削	掘削深計	3.497				3.497	
	呼び径	φ2000					
ケーシング	ケーシング長 (m)	2.60				2.60	
	仮設ケーシング (個)	1				1	
	刃先 (個)	1				1	
	引上げ (m)	0.9				0.9	
	切断 (m)	12.01				12.01	
	撤去 (m)	1.43				1.43	
スクラップ	単位体積重量	0.62					
	重量 (t)	0.88				0.88	
底盤・底部	コンクリート (m3)	3.1				3.1	
	碎石						
泥水処分 (m3)			1.2			1.2	
圧入機械	設置撤去 (箇所)	1				1	

低耐荷力オーガ推進工法, 鋼製さや管推進工法

当初: 黒字 変更: 赤字

番号	1		2		3		合計	
路線番号	148号路線		148号路線					
工法	低耐荷力オーガ推進		鋼製さや管推進					
本管	管種	SSPS φ200	管種	VP φ200				
さや管	管種		管種	φ300				
下流	測点	No. 148-19	測点	No. 148-21-1				
	人孔		人孔	新設 1号MH				
	立坑	発進 ケーシング φ2000	立坑	発進 軽量鋼矢板 1500*1500				
上流	測点	No. 148-18	測点	No. 148-21				
	人孔	新設 1号MH	人孔	新設 1号MH				
	立坑	到達 軽量鋼矢板 1500*1500	立坑	到達 軽量鋼矢板 1500*1500				
延長	区間	22.00	区間	9.30			31.30	
	MH分減延長	下流分		下流分	0.45			
		上流分	0.45	上流分	0.45			
	管渠	21.55	管渠	8.40			29.95	
	立坑分減延長	下流分	1.03	立坑分減延長	0.75			
		上流分	0.75	上流分	0.75			
推進	20.22	推進	7.80			28.02		
誘導管(さや管)推進工		20.22	誘導管(さや管)推進工		7.80	28.02		
埋設管推進工		20.22	埋設管推進工			20.22		
塩ビ管挿入工			塩ビ管挿入工		7.80	7.80		
グラウト注入工			グラウト注入工		0.29	0.29		
立坑内管	布設	下流	1.03	下流	0.30			
		上流	0.30	上流	0.30			
		計	1.33	計	0.60	1.93		
管材料	先頭管	L=0.5		L=0.5	1	1		
		L=1.0	1	L=1.0		1		
	標準管	L=0.5		L=0.5	14	14		
		L=1.0	19	L=1.0		19		
	最終管	L=0.5		L=0.5	1	1		
		L=1.0	1	L=1.0		1		
スクリュコンベヤ類撤去		20.22	スクリュコンベヤ類撤去			20.22		
発生土処理		0.75	発生土処理		0.62	1.37		
仮設備工	坑口工	発進側		坑口工				
		到達側		到達側				
		計		計				
	既設MH坑口			既設MH坑口				
	鏡切り	発進側	1	鏡切り	1			
		到達側	1	到達側	1			
計		2	計	2	4			
推進設備等設置撤去			推進設備等設置撤去		1	1		
先導管据付撤去工		1	先導管据付撤去工			1		
推進工法用可とう継手		ケーシング立坑用VP200	推進工法用可とう継手					
既MH用VP200			既MH用VP200					
VU-RR受口-リブ差し口変換接手		RR-PRP200	VU-RR受口-リブ差し口変換接手					
立坑内管 基礎工		砕石基礎	立坑内管 基礎工					

# 推進工 数量集計表

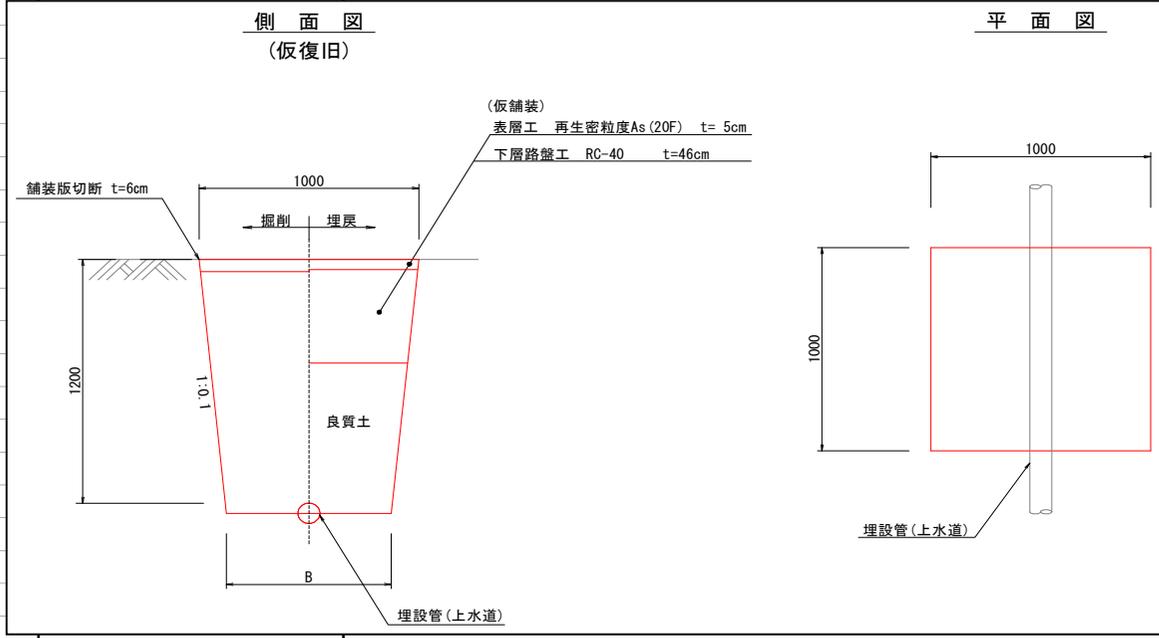
上段：当初  
下段：変更

細別	規格	算式		数量
小口径推進管	φ200×1000mm SSPS φ200	1+19+1	= 21.0	21.0 本
(推進工)				
パイロットパイプ推進工				m
埋設管推進工		20.22	= 20.22	20.20 m
添加剤注入工				m
コンベヤ類撤去工		20.22	= 20.22	20.20 m
推進設備工 設置・撤去		1	= 1.00	1 箇所
坑口工	ケーシング立坑 φ2000			箇所
鏡切り工	ケーシング立坑 φ2000	2	= 2.00	2 箇所
発生土処分工		0.75	= 0.75	1 m <sup>3</sup>
立坑内管布設工	SSPS φ200	1.03+0.3	= 1.33	1.30 m
簡易推進工 (さや管推進)	φ300×500mm 鋼管	1+14+1	= 16.00	16.0 本
	φ200×1000mm VP φ200	9	= 9.00	9.0 本
	ソケット φ200用	8	= 8.00	8.0 個
	鋼製スペーサー φ200用	4	= 4.00	4.0 個
(推進工)				
さや管推進工	φ300×500mm 鋼管	7.80	= 7.80	7.8 m
塩ビ管挿入工	VP φ200	7.80	= 7.80	7.8 m
MCグラウト注入工		0.29	= 0.29	0.3 m <sup>3</sup>
推進設備工 設置・撤去		1	= 1.00	1.0 箇所
鏡切り工	□軽量鋼矢板 鋼管 φ300	2	= 2.00	2.0 箇所
排土工	φ300 鋼管	7.80	= 7.80	7.8 m
発生土処分工		0.62	= 0.62	0.6 m <sup>3</sup>
立坑内管布設工	VP φ200	0.3+0.3	= 0.60	0.6 m

細別	規格	算式		数量
(ケーシング立坑)	φ2090×12mm			
鋼製ケーシング存置	先端・最終 φ2090×12mm	2.60	= 2.60	2.6 m
	刃先 外径φ2114	1	= 1.00	1.0 個
仮設ケーシング損料	1箇所	1	= 1.00	1.0 式
鋼製ケーシング 圧入掘削	圧入掘削積込	3.507	= 3.51	3.50 m
埋戻	機械投入埋戻工 BH0.28m3 再生改良土	10.06	= 10.06	10.10 m3
	ケーシング溶接工	6.28	= 6.28	6.30 m
	ケーシング引上工	0.9	= 0.90	0.90 m
	ケーシング切断工	12.01	= 12.01	12.00 m
底盤コンクリート	30-18-20	3.1	= 3.10	3.1 m3
圧入掘削設備工	設置・撤去	1	= 1.0	1 箇所
立坑水替工		1	= 1.0	1 箇所
泥水処分工		1.2	= 1.2	1.2 m3
発生土処分工		11.99	= 12.0	12.0 m3
路面覆工		1	= 1.0	1 式
円形覆工板	φ2000用	1	= 1.0	1 箇所
ケーシング撤去工	廃材処理	0.88	= 0.88	0.90 t
ケーシング運搬重量	φ2000 0.615t/m	0.615*4.6	= 2.83	2.80 t
(付帯工に計上) 立坑(ケーシング, 軽量鋼矢板)				
舗装撤去	舗装版切断 t≤15cm	26.40	= 26.40	26.4 m
	舗装版破碎(積込含む) 人力	11.16	= 11.16	11.2 m2
	As運搬処理	0.69	= 0.69	0.7 m3
仮舗装工	下層路盤工 RC-40, t=46cm	8.91	= 8.91	8.9 m2
	上層路盤工 M-40, t=10cm	2.25	= 2.25	2.3 m2
	表層工 歩道 再生合材, t=3cm	2.25	= 2.25	2.3 m2
	表層工 車道 再生合材, t=5cm	8.91	= 8.91	8.9 m2

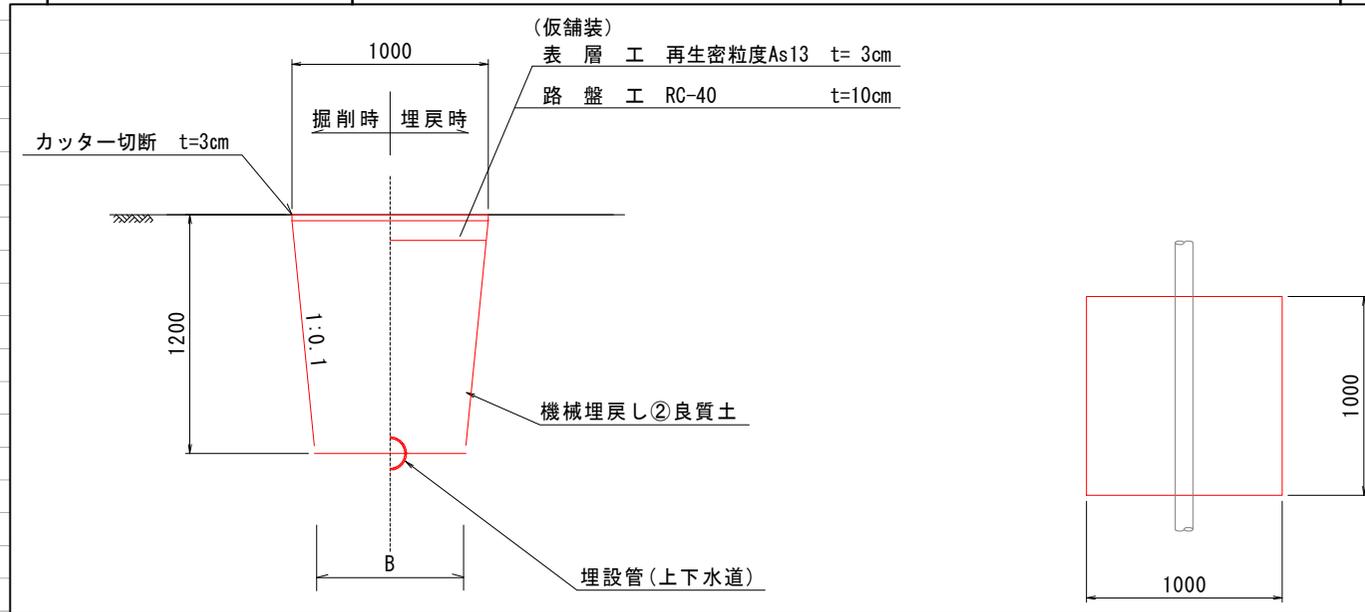
**試掘工(県道N4・仮復旧) 1箇所当たり概算数量**

細別	規格	算式	数量
掘削		$(1*1+(1-1.14*0.1*2)^2)/2*(1.2-0.06)$	0.91
埋戻(埋戻)	発生土	$((1-0.51*0.1*2)^2+(1-1.15*0.1*2)^2)/2*0.69$	0.48
土砂等運搬	2t、L=4.0km	0.91-0.48/0.9	0.37
舗装版切断	t ≤ 15cm	1.0*4	4.00
舗装版破碎	t ≤ 15cm	1.0*1.0	1.00
殻運搬	2t、L=25.6km	1.0*1.0*0.06	0.06
殻処分	日本海アスコン	0.06	0.06
下層路盤	RC-40、t=46cm	1	1.00
上層路盤			m2
表層	再生密粒度As13F t=5cm	1	1.00
交通誘導員	B	0.5	0.50



**試掘工(県道歩道・仮復旧) 1箇所当たり概算数量**

細別	規格	算式	数量
掘削		$(1*1+(1-1.17*0.1*2)^2)/2*(1.2-0.03)$	0.93
埋戻(埋戻)	発生土	$((1-0.13*0.1*2)^2+(1-1.17*0.1*2)^2)/2*0.87$	0.67
土砂等運搬	2t、L=4.0km	$0.93-0.67/0.9$	0.19
舗装版切断	t ≤ 15cm	$1.0*4$	4.00
舗装版破碎	t ≤ 15cm	$1.0*1.0$	1.00
殻運搬	2t、L=25.6km	$1.0*1.0*0.03$	0.03
殻処分	日本海アスコン	0.03	0.03
路盤	RC-40、t=10cm	1	1.00
表層	再生密粒度As13 t=3cm	1	1.00
交通誘導員	B	0.5	0.50



令和 7 年度

鶴岡市集落排水事業  
三瀬地区管路施設105～148号新設工事

数量総括表・数量計算書(単独)

鶴岡市 由良 地内ほか

数量総括表

上段：当初、下段：変更

工事区分	工種	種別	細別	規格	単位	数量	計算式	摘要
管路(単独)								
	管きょ工(開削)							
		管路土工						
			管路掘削	掘削 BH0.28m3	m3	28	28.3 = 28.3	土工集計表・計算書
			管路埋戻	機械投入埋戻工 管保護部 BH0.28m3 再生改良土	m3	6	6.0 = 6.0	土工集計表・計算書
				機械投入埋戻工 埋戻部 BH0.28m3 再生改良土	m3	10	9.7 = 9.7	土工集計表・計算書
			発生土処理	土砂等運搬 4tDT L=15.5km 現場～改良センター	m3	16	15.7 = 15.7	
				土砂等運搬 4tDT L=12.8km 現場～加茂水族館第3駐車場	m3	13	28.3-15.7 = 12.6	
				建設発生土処理 水分50.0未満	m3	16	6+9.7 = 15.7	
		管布設工						
			リップ付硬質塩化ビニル管	リップ付硬質塩化ビニル管布設工 VRφ150	m	26	26.1 = 26.1	管きょ数量表
			埋設表示	下水道用埋設表示シート 2倍 150mm×50m	m	26	26.1 = 26.1	管きょ数量表
				埋設表示テープ B30mm×t0.15mm±0.03mm	m	34	34.4 = 34.4	管きょ数量表
		管基礎工						
			砕石基礎	砕石基礎設置 機械施工 RC-40 t=15cm	m3	3	3.4 = 3.4	土工集計表・計算書
				(材料)砕石 RC-40	m3	4	3.4*1.2 = 4.1	土工集計表・計算書
			全巻基礎	型枠 小型構造物	m2	13	13.1 = 13.1	全巻コンクリート計算書
				コンクリート 18-8-40BB	m3	2.3	2.3 = 2.3	全巻コンクリート計算書

数量総括表

上段：当初、下段：変更

工事区分	工種	種別	細別	規格	単位	数量	計算式	摘要
		開削水替工						
			開削水替	ポンプ運転 口径50mm 商用電源 作業時排水	式	1	1.0 = 1.0	水替日数数量計算書
	マンホール工							
		組立マンホール						
			内副管	内副管取付工 段差1.0m未満	箇所	1	1.0 = 1.0	副管設置工数量計算書
				(材料費)立管 4m/本 VUφ100	m	1	1.0 = 1.0	副管設置工数量計算書
				(材料費)内副管継手 VUφ150-100	個	1	1.0 = 1.0	副管設置工数量計算書
				(材料費)内副管用エルボ VUφ100	個	1	1.0 = 1.0	副管設置工数量計算書
				(材料費)内副管用固定バンド VUφ100	個	1	1.0 = 1.0	副管設置工数量計算書
		小型マンホール工						
			小型マンホール	小型マンホール工(基礎材含) VUφ300 マンホール深2.0m以下	箇所	2	2.0 = 2.0	塩ビ小口径マンホール計算書
				小型マンホール工 加算額 鋳鉄製防護蓋設置費(手間のみ)	箇所	2	2.0 = 2.0	塩ビ小口径マンホール計算書
				(材料費) 保護鉄蓋 T-14 φ300用 沈下防止板含 市販入 デザイン型	組	2	2.0 = 2.0	塩ビ小口径マンホール計算書
	取付管およびます工							
		管路土工						
			管路掘削	掘削 BH0.28m3	m3	0.4	0.4 = 0.4	土工集計表・計算書
				掘削 人力	m3	0.4	0.4 = 0.4	土工集計表・計算書

数量総括表

上段：当初、下段：変更

工事区分	工種	種別	細別	規格	単位	数量	計算式	摘要
			管路埋戻	機械投入埋戻工 BH0.28m3 再生改良土	m3	0.2	0.2 = 0.2	土工集計表・計算書
				埋戻し 人力 流用土	m3	0.4	0.4 = 0.4	土工集計表・計算書
			発生土処理	土砂等運搬 4tDT L=15.5km 現場～改良センター	m3	0.2	0.2 = 0.2	
				土砂等運搬 4tDT L=4.0km	m3	0.2	0.4-0.2 = 0.2	
				建設発生土処理 水分50.0%未満	m3	0.2	0.2 = 0.2	
		ます設置工						
			ます	ます設置工(基礎材含) VUφ200	箇所	1	1.0 = 1.0	土工集計表・計算書
		取付管布設工						
			取付管	取付管布設工(基礎材含) VUφ150 3m未満	箇所	1	1.0 = 1.0	土工集計表・計算書
			埋設表示	下水道用埋設表示シート 2倍 150mm×50m	m	2	1.7 = 1.7	土工集計表・計算書
				埋設表示テープ B30mm×t0.15mm±0.03mm	m	3	2.6 = 2.6	土工集計表・計算書
	付帯工(開削)							
		舗装撤去工						
			舗装版切断	舗装版切断 As 15cm以下	m	4	3.8 = 3.8	土工集計表・計算書
				Co版切断 Co 15cm以下	m	52	50.2+1.5 = 51.7	土工集計表・計算書
			舗装版破碎	舗装版破碎 As 10cm以下	m2	2	2.1 = 2.1	土工集計表・計算書
				Co版破碎 As 10cm以下	m2	28	27.6+0.6 = 28.2	土工集計表・計算書
			殻運搬処理	殻運搬・処理 As L=27.8km 現場～日本海	m3	0.1	0.1 = 0.1	土工集計表・計算書

数量総括表

上段：当初、下段：変更

工事区分	工種	種別	細別	規格	単位	数量	計算式	摘要
				殻運搬・処理 Co L=9.6km 現場～小野寺建設	m3	3	2.8+0.1 = 2.9	土工集計表・計算書
		舗装仮復旧工						
			下層路盤	RC-40 t=15cm	m2	28	27.9+0.5 = 28.4	土工集計表・計算書 市道N2
			上層路盤	M-40 t=15cm	m2	29	28.8+0.5 = 29.3	土工集計表・計算書 市道N2
			表層	車道 仮舗装 再生密粒度AS(13F) t=4cm	m2	2	2.1 = 2.1	土工集計表・計算書 市道N2
				Co 本復旧 18-8-40 t=10cm	m3	3	(27.6+0.6)*0.1 = 2.8	土工集計表・計算書 Co道
				溶接金網設置	m2	28	27.6+0.6 = 28.2	土工集計表・計算書 Co道
	仮設費							
		交通管理工						
			交通誘導員	交通誘導員B	人	12	12.0 = 12.0	交通誘導員算定表
共通仮設								
	共通仮設費							
		準備費						
			試掘	N2市道部	箇所		0.0	
		事業損失防止施設費						
			工損調査	工損調査(5軒/日)	軒	1	1.0 = 1.0	
		技術管理費						
			土質試験	土の一軸圧縮試験 JIS A 1216	試料	0	27/100 = 0.3	





土工集計表(素掘)

上段：当初  
下段：変更

番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					合計			
路線		105	105	105															
舗装区分		法定外Co	法定外Co	市道N2															
掘削	BH0. 28m3	11.22	15.38	1.75												28.3			
	BH0. 13m3															m3			
	BH0. 08m3															m3			
埋戻	管保護部	BH0. 28m3	2.07	3.52	0.45												6.0		
		再生改良土															m3		
		BH0. 28m3															m3		
		丘砂															m3		
		BH0. 13m3															m3		
		再生改良土															m3		
	埋戻部	BH0. 08m3															m3		
		再生改良土															m3		
		BH0. 28m3	4.69	4.60	0.44												9.7		
		再生改良土															m3		
管基礎	埋戻部	BH0. 13m3														m3			
		再生改良土														m3			
管基礎	埋戻部	BH0. 08m3														m3			
		再生改良土														m3			
管基礎	埋戻部	丘砂														m3			
		碎石	1.19	2.05	0.20												3.4		
舗装撤去	切断	AS			3.76												3.8		
		t ≤ 15cm															m		
	切断	Co	20.00	30.24														50.2	
		t ≤ 15cm																m	
	破碎	AS			2.06													2.1	
		t ≤ 10cm 小規模																m2	
		Co	10.64	16.98														27.6	
	As	運搬処理	t ≤ 10cm																m2
			t ≤ 10cm															m2	
			t ≤ 10cm															m2	
As	運搬処理	As			0.10												0.1		
		小規模															m3		
Co	運搬処理	Co	1.06	1.70													2.8		
		小規模															m3		
舗装復旧	下層	RC-40	9.99	16.00	1.96												27.9		
		t=15cm															m2		
		M-40																m2	
		t=10cm																m2	
		RC-40																m2	
		t=10cm																m2	
		RC-40																m2	
	t=20cm																m2		
	上層	RC-40																m2	
		t=32cm																m2	
		M-40	10.29	16.45	2.02													28.8	
	表層	As	t=15cm															m2	
			t=10cm															m2	
Co		t=10cm															m2		
		t=10cm															m2		
As	t=4cm			2.06													2.1		
	t=3cm																m2		
Co	t=10cm	10.64	16.98														27.6		
	t=10cm																m2		

土工計算書(素掘)

当初：黒字(左欄)  
変更：赤字(右欄)

番号			1	2	3	4
路線番号			105	105	105	
本管	管種		PRP φ 150	PRP φ 150	PRP φ 150	
延長	区間		10.00	15.12	1.88	
上流	測点		NO. 105-1	NO. 105-2	NO. 105-2+15.12	
		塩ビMH		塩ビMH		
	地盤高		19.85	18.90	16.53	
	管底高		18.690	17.740	15.774	
下流	測点		NO. 105-2	NO. 105-2+15.12	NO. 106-1	
		塩ビMH			1号MH	
	地盤高		18.90	16.53	16.43	
	管底高		17.740	15.774	15.530	
掘削	厚	基礎	0.15	0.15	0.15	
		既設舗装厚	0.10	0.10	0.05	
	幅	基礎下	0.80	0.90	0.90	
舗装撤去	切断回数		1	1	1	
舗装復旧	復旧方法		本復旧	本復旧	仮復旧	
	復旧断面		法定外Co	法定外Co	市道N2	
舗装復旧厚	下層		0.15	0.15	0.15	
	上層(歩道路盤)		0.15	0.15	0.15	
	基層					
	中間層					
	表層		0.10	0.10	0.04	
材料	埋戻	管保護部	再生改良土	再生改良土	再生改良土	
		埋戻部	再生改良土	再生改良土	再生改良土	
	管基礎		碎石	碎石	碎石	
延長	MH分減延長	下流分	0.15	0.15		
		上流分	0.15		0.45	
	管渠		9.70	14.97	1.43	
平均掘削深		1.32	1.12	0.99		
掘削	厚		1.22	1.02	0.94	
	掘削勾配		0.1	0.1	0.1	
	平均幅		0.92	1.00	0.99	
	土量		11.22	15.38	1.75	
埋戻	厚	管保護部	0.27	0.27	0.27	
		埋戻部	0.50	0.30	0.23	
	平均幅	管保護部	0.86	0.96	0.96	
		埋戻部	0.93	1.01	1.01	
	土量	管保護部	2.07	3.52	0.45	
		埋戻部	4.69	4.60	0.44	
計		6.76	8.12	0.88		
管基礎	平均幅		0.82	0.92	0.92	
	数量		1.19	2.05	0.20	
舗装撤去	幅		1.06	1.12	1.10	
	切断		20.00	30.24	3.76	
	破碎		10.64	16.98	2.06	
	運搬処理		1.06	1.70	0.10	
舗装復旧	下層	平均幅	1.00	1.06	1.04	
		面積	9.99	16.00	1.96	
	上層・歩道路盤	平均幅	1.03	1.09	1.07	
		面積	10.29	16.45	2.02	
	基層	平均幅				
		面積				
	中間層	平均幅				
		面積				
表層	幅		1.06	1.12	1.10	
	面積		10.64	16.98	2.06	





塩ビ小口径マンホール計算書

上段：当初  
下段：変更

番号	測点	地盤高	管底高	マンホール深	インバート部											蓋				
					15L	30L	45L	60L	75L	90L	45Y	90Y	KT	ST	DR	KDR	内	8	14	
合計			H≤2.0	2.0<H≤3.5																
	起点及び中間	2						1		1								2		2
	底部会合																			
	起点及び中間形式	H≤2.0	2.0<H≤3.5																	
	底部会合形式																			
1	起点 105-1	19.85	18.690	1.160						1								1		1
2	中間 105-2	18.90	17.740	1.160				1										1		1
3																				
4																				
5																				
6																				
7																				
8																				
9																				
10																				
11																				

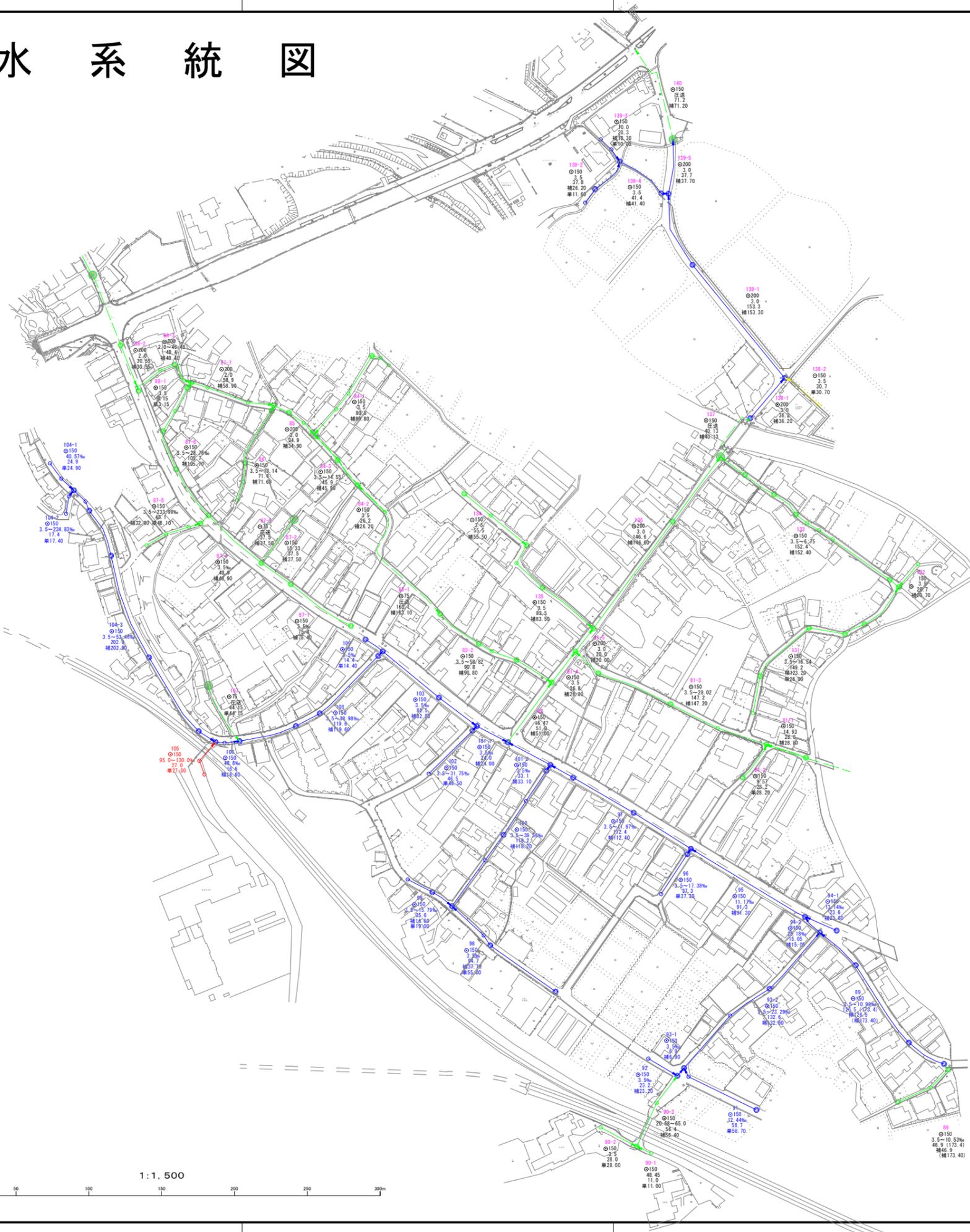


土工計算書(取付管 素掘)

当初：黒字(左欄)  
変更：赤字(右欄)

番号			1					
路線番号・所有者	105①		豊浦中学校					
取付管	管種	VUφ150						
ます	形状	横						
	流入管深さ	0.90						
延長	取付管	1.65						
	民地内	0.50						
本管掘削幅(平均幅)			0.80					
掘削	厚	ます深	0.90					
		基礎	0.10					
		既設舗装厚	0.10					
	幅	基礎下	0.55					
舗装撤去	切断回数	1						
舗装復旧	復旧方法	本復旧						
	復旧断面	法定外Co						
舗装復旧厚	下層	0.15						
	上層(歩道路盤)	0.15						
	基層							
	中間層							
	表層	0.10						
宅内	撤去・復旧	表土						
	汚水ます蓋	樹脂						
材料	埋戻	取付管	再生改良土					
延長	本管掘削分減		0.40					
	掘削・埋戻	取付管	0.75					
		ます	0.80					
平均掘削深			1.01					
掘削	厚	取付管	0.81					
		ます	1.00					
	掘削勾配		0.1					
	平均幅	取付管	0.63					
		ます	0.50					
	土量	取付管	0.38					
ます		0.40						
埋戻	厚	取付管	0.41					
		ます	0.90					
	平均幅	取付管	0.61					
		ます	0.50					
	土量	取付管	0.17					
		ます	0.36					
埋設表示	シート	1.65						
	テープ	2.60						
舗装撤去	幅	舗装面	0.75					
	切断		1.50					
	破碎		0.56					
	運搬処理		0.06					
舗装復旧	下層	幅	0.69					
		面積	0.51					
	上層・歩道路盤	幅	0.70					
		面積	0.52					
	表層	幅	0.75					
		面積	0.56					
宅内	基礎復旧	厚						
		面積						
	表層撤去復旧	厚						
		面積						

# 計画排水系統図

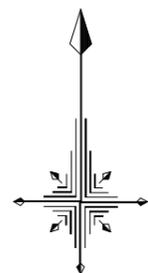


凡 例	
	枝線管渠(自然流下管)
	枝線管渠(圧送管)
	枝線記号 管径(mm) 勾配(%) 延長(m)
	塩ビ製小型マンホール
	1号マンホール
	マンホールポンプ場



1 : 1,500

令和 7 年度	図番	10 葉 1
事業名	鶴岡市集落排水事業	
工事名	三瀬地区管路施設105~148号新設工事	
位置	鶴岡市三瀬地内	
計画排水系統図		1 葉 1
縮尺	1 : 1,500	鶴 岡 市



日本海

由良漁港

庄内浜浜立自然公園

三瀬地区管路施設

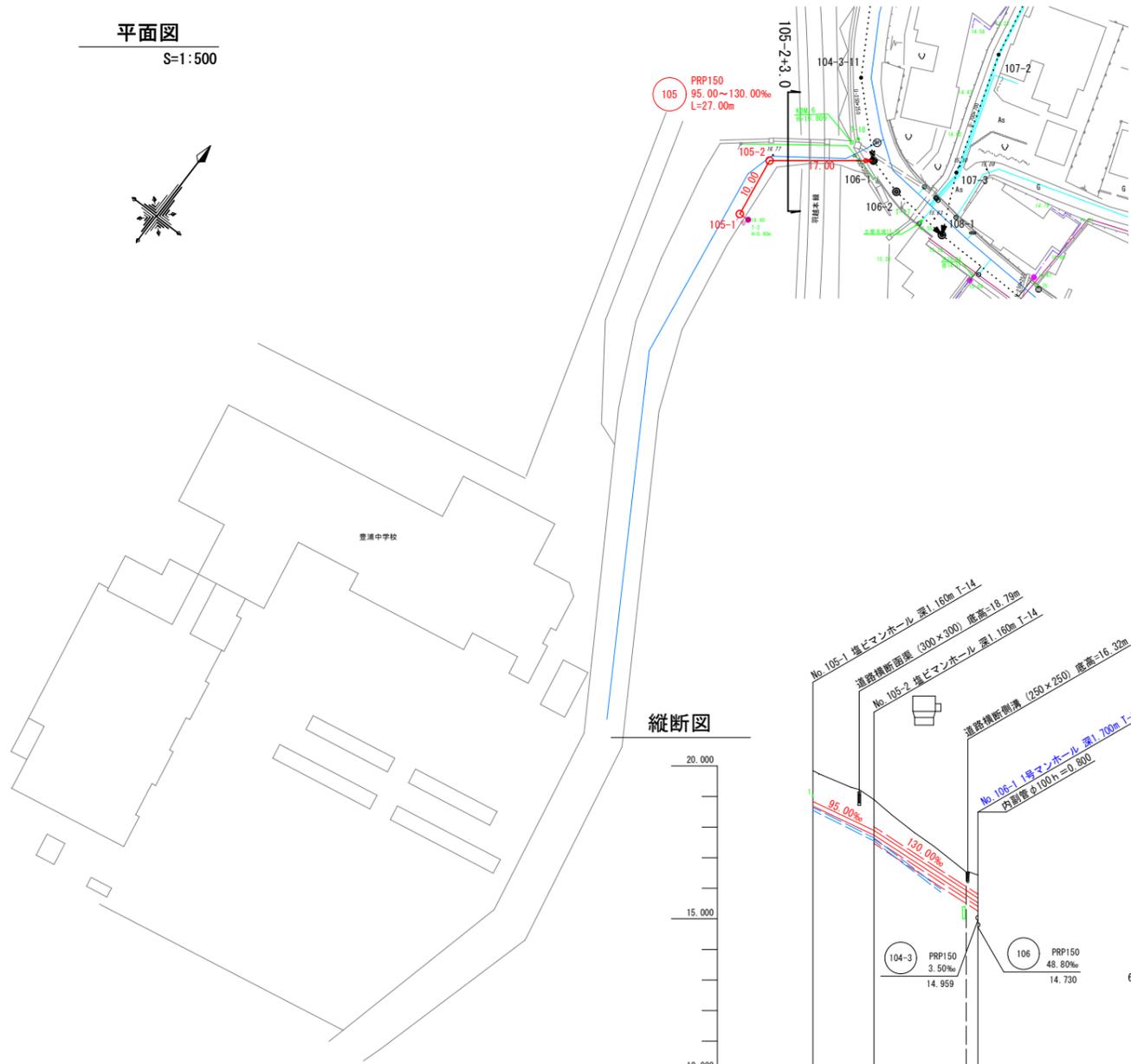
国道7号線

記号	名称
→	実設汚水線
→	既設汚水線
→	新設汚水線
○	管線番号 断面 (mm)
○	2.90 勾配 (%)
○	218.00 標高 (m)
●	マンホール
⊕	マンホールポンプ

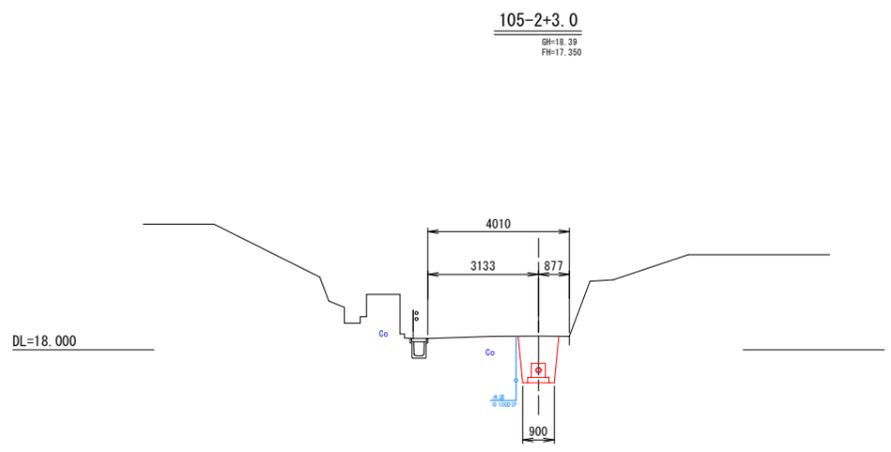
令和7年度	図番	10葉2
事業名	鶴岡市集落排水事業	
工事名	三瀬地区管路施設105~148号新設工事	
位置	鶴岡市由良地内	
系統図		1葉1
縮尺	1:2,500	鶴岡市

出典：地理院タイル(<https://www.gsi.go.jp/kikakuchousei/kikakuchousei40182.html>)  
 地理院タイル(地理院地図Vector)を加工して作成

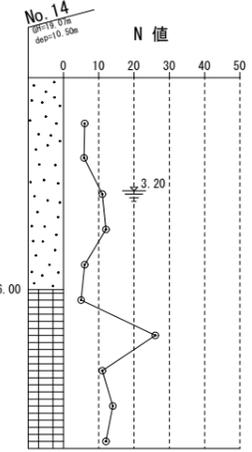
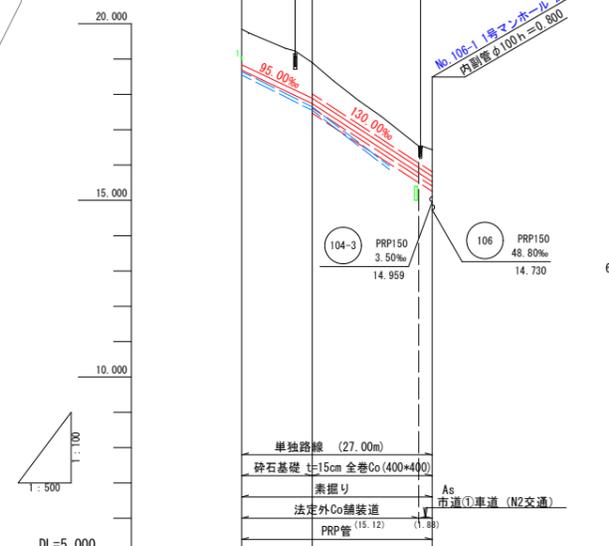
平面図  
S=1:500



横断面  
S=1:100



縦断面  
S=1:500



区間距離	10.00	17.00
路線番号	105 PRP150 95.00~130.00% L=27.00m	
勾配	95.00%	130.00%
現況地盤高	19.85	18.90
掘削深	1.32	1.32
土被り	1.00	1.00
管底高	18.690	17.740
追加距離	0.000	10.000
単距離	0.000	10.000
測点	105-1	105-2

凡例

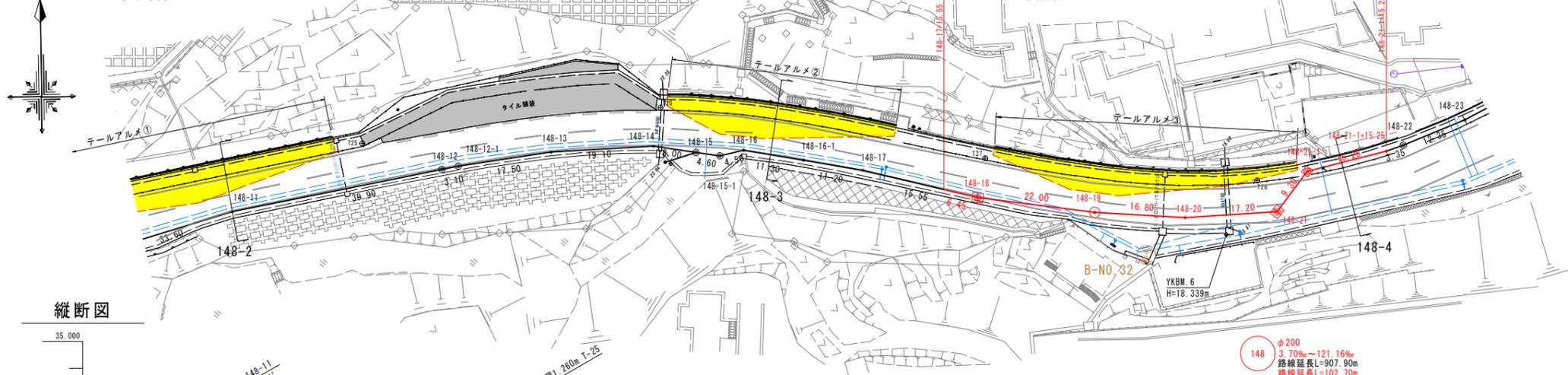
1号マンホール	●
塩ビマンホール	○
曲管(ベント管)	•
マンホールポンプ	●
汚水樹(横抜き型)	●
汚水樹(底抜き型)	○

開削部管路	←
推進部管路	←---
圧送部管路	←---
他路線管路	←.....

令和7年度	図番	10葉3
事業名	鶴岡市集落排水事業	
工事名	三瀬地区管路施設105~143号新設工事	
位置	鶴岡市三瀬地内	
105号		
平面・縦断・横断面		13葉12
縮尺	1:図示	鶴岡市

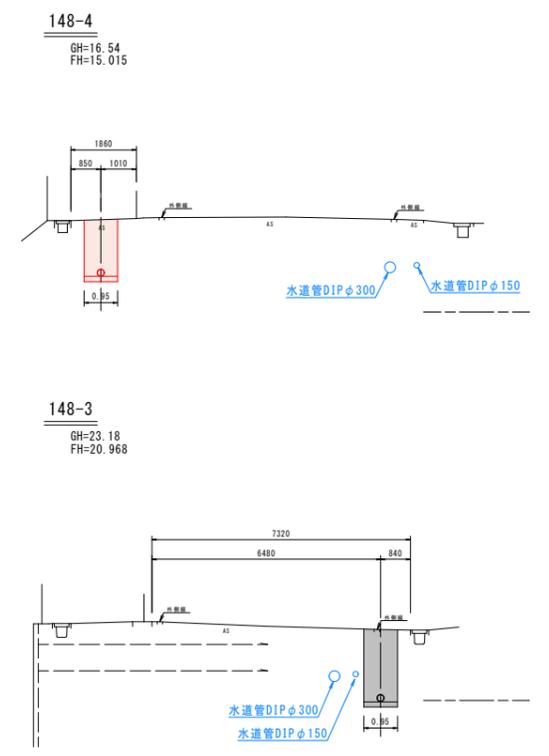
平面図

S=1:500

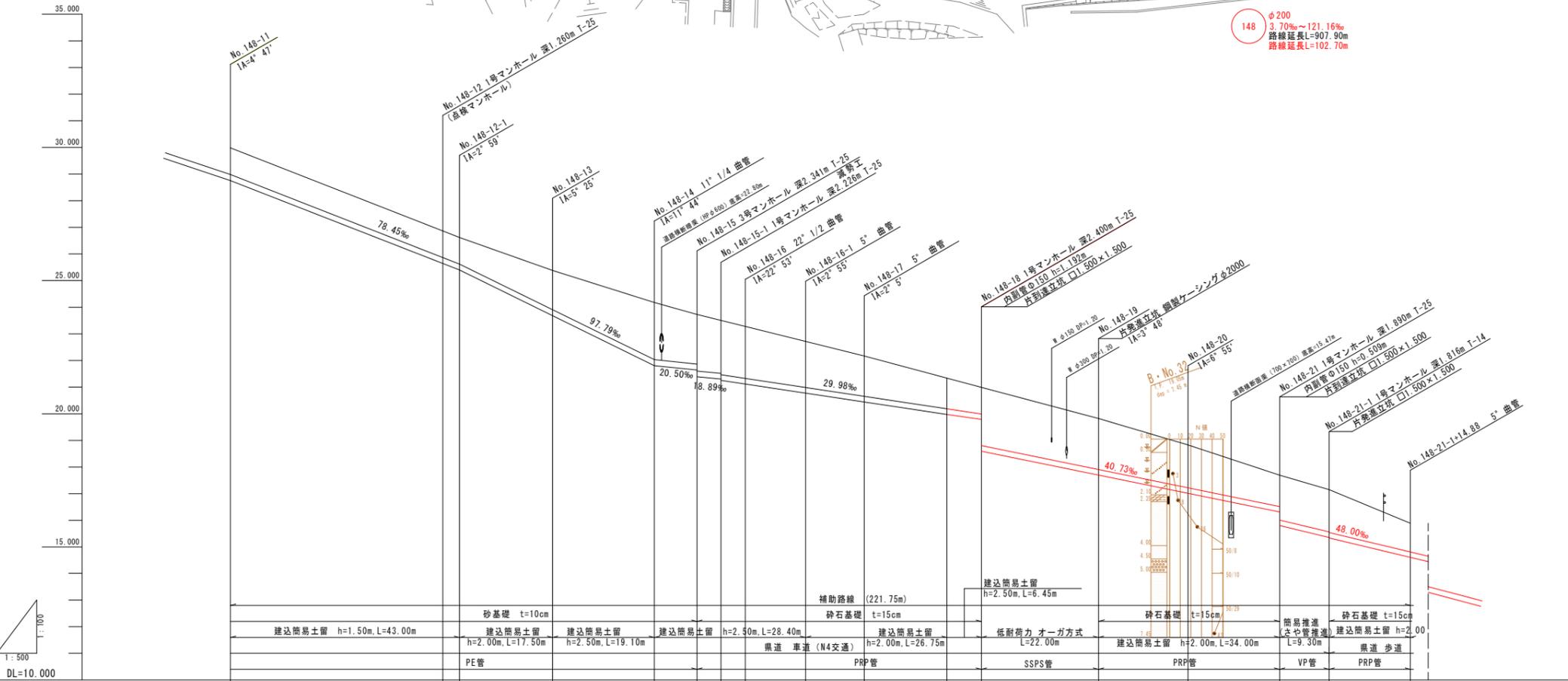


横断面

S=1:100



縦断面



区間距離	39.90		3.10	17.50	19.10	8.00	4.50	4.60	11.30	11.20	15.55	6.45	22.00	16.80	17.20	9.30	15.25	
路線番号	148 PE200 78.45%, 97.79% L=87.60m PRP200 29.98%~48.00% L=102.85m SSPS200 40.73% L=22.00m VP200 48.00% L=9.30m																	
勾配	78.45%		97.79%			20.50%	8.89%	29.98%			40.73%		48.00%					
現況地盤高	29.98	26.85	26.62	25.39	24.10	23.72	23.48	23.28	22.72	22.17	21.31	20.99	19.82	18.89	17.69	17.15	15.89	
掘削深	1.35	1.35	1.38	1.83	2.45	2.10	2.13	2.02	2.11	1.88	1.52	1.37	2.28	1.98	1.52	1.95	1.45	
土被り	1.00	1.00	1.01	1.48	2.15	2.10	1.85	1.87	1.75	1.52	1.16	1.00	1.92	1.61	1.68	1.59	1.08	
管底高	28.75	25.50	25.82	23.61	21.65	21.75	21.35	21.26	20.77	20.42	19.95	19.78	17.64	16.91	15.30	15.35	14.60	
追加距離	-																	
単距離	33.60	39.90	3.10	17.50	19.10	8.00	4.50	4.60	11.30	11.20	15.55	6.45	22.00	16.80	17.20	9.30	15.25	
測点	148-11	148-12	148-12-1	148-13	148-14	148-14-1	148-15	148-15-1	148-16	148-16-1	148-17	148-17-1	148-18	148-19	148-20	148-21	148-21-1	148-21-1-1

凡例

1号マンホール	●
埋マンホール	○
曲管(ベント管)	・
マンホールポンプ	●
汚水樹(横抜き型)	●
汚水樹(底抜き型)	○

開削部管路	←
推進部管路	←
圧送部管路	←
他路線管路	←

令和7年度 図番 10葉4

事業名 鶴岡市集落排水事業

工事名 三瀬地区管路施設105~148号新設工事

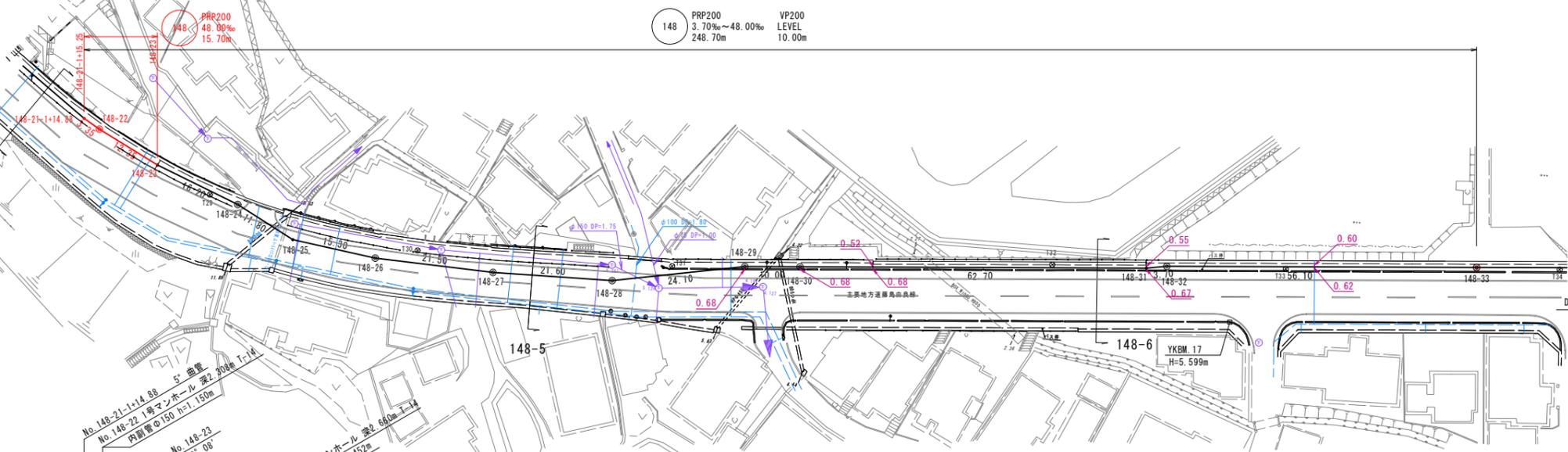
位置 鶴岡市由良地内ほか

148号 平面・縦断・横断面 3葉2

縮尺 1: 図示 鶴岡市

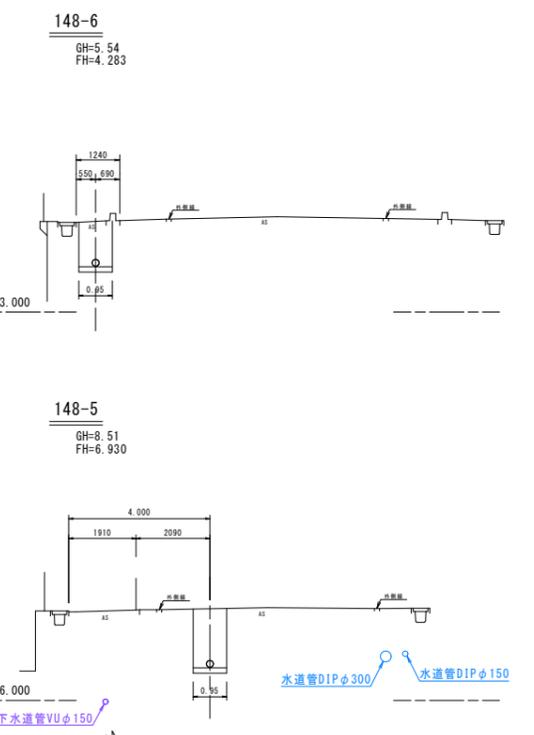
平面図

S=1:500



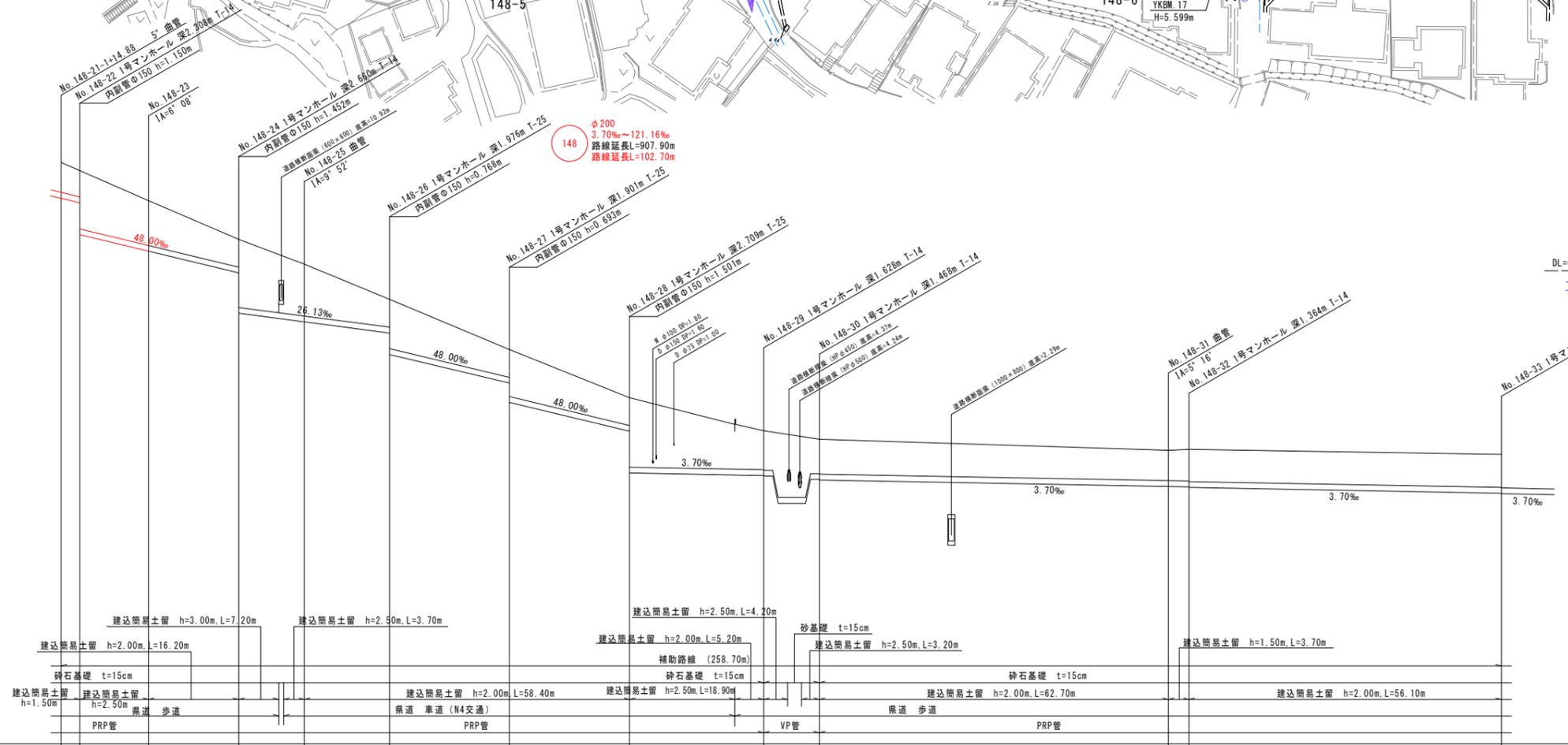
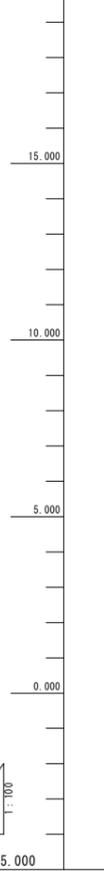
横断面

S=1:100



縦断面

1:500



区間距離	3.35	12.35	16.20	11.80	15.30	21.50	21.60	24.10	10.00	62.70	3.70	56.10	
路線番号	148 PRP200 3.70%~48.00% VP200 LEVEL L=248.70m												
勾配	48.00%												
現況地盤高	15.89	15.00	14.50	13.10	12.20	10.90	9.17	7.40	6.40	6.25	6.10	5.95	
掘削深	1.45	1.30	1.88	1.37	2.87	2.24	1.37	2.87	1.98	1.77	1.99	1.57	
土被り	1.08	0.95	1.61	1.00	2.45	1.87	1.00	2.50	1.61	1.40	1.42	1.15	
管底高	14.802	14.442	12.899	11.922	10.470	9.762	8.894	7.862	7.269	6.232	4.731	4.661	
追加距離	15.256	420.350	436.050	451.000	462.800	478.100	499.900	521.200	540.100	545.900	550.800	555.200	
単距離	15.256	3.350	436.050	15.250	11.800	15.300	21.500	21.600	18.900	5.200	4.500	56.100	
測 点	148-21-1 +15.25	148-22	148-23	148-24	148-25	148-26	148-27	148-28	148-29	148-30	148-31	148-32	148-33

令和7年度 図番 10 葉 5

事業名 鶴岡市集落排水事業

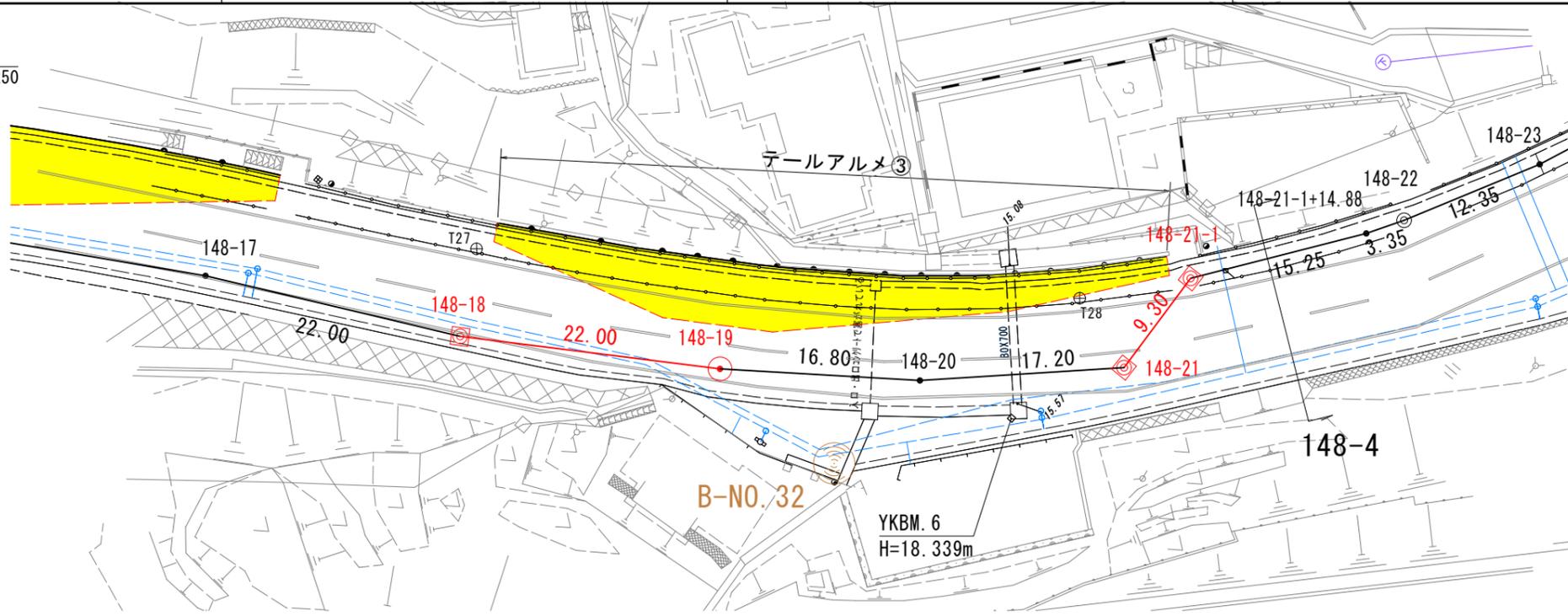
工事名 三瀬地区管路施設105~148号新設工事

位置 鶴岡市由良地内

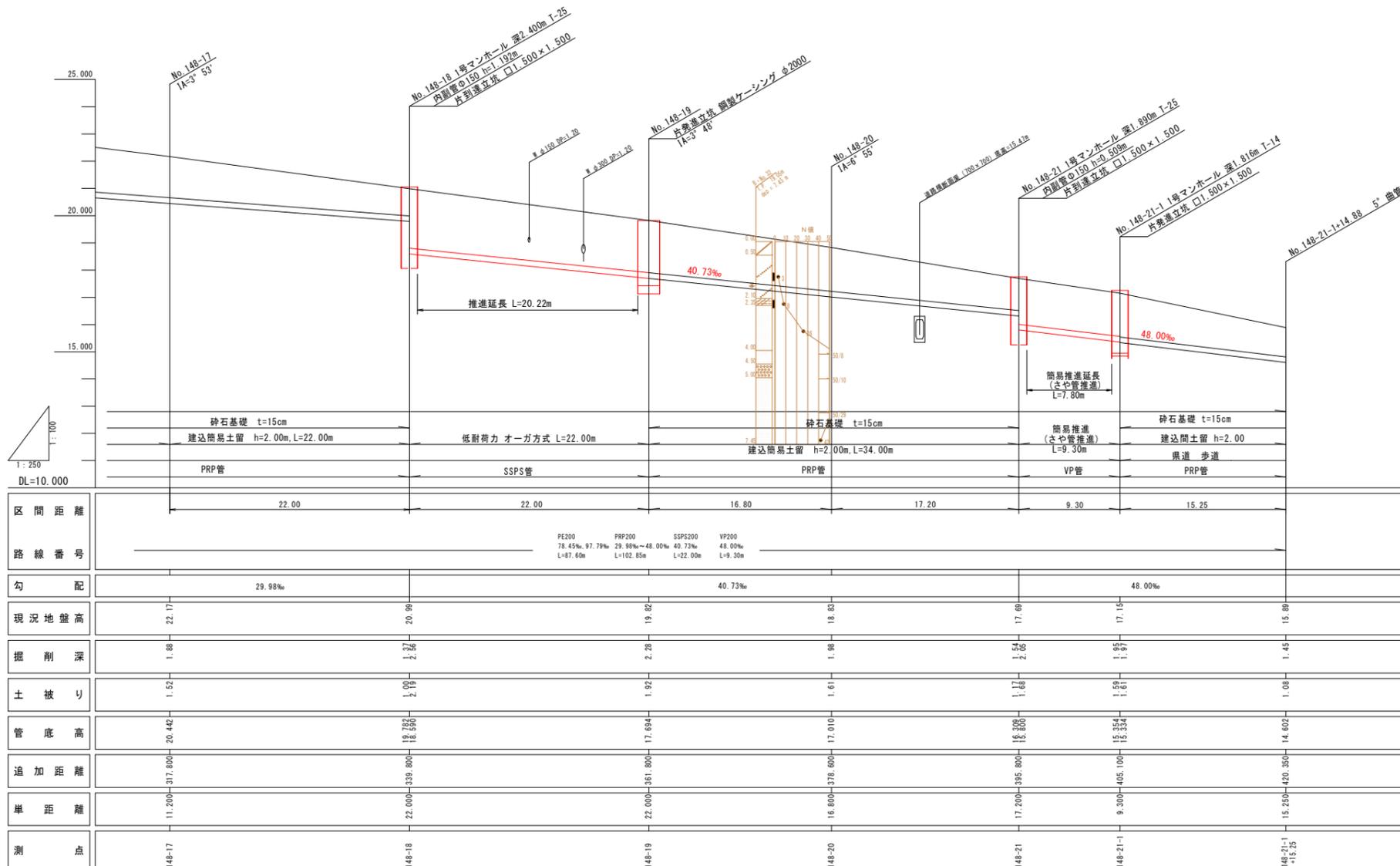
148号  
平面・縦断・横断面 3 葉 3

縮尺 1: 図示 鶴岡市

平面図  
S=1:250



縦断面図

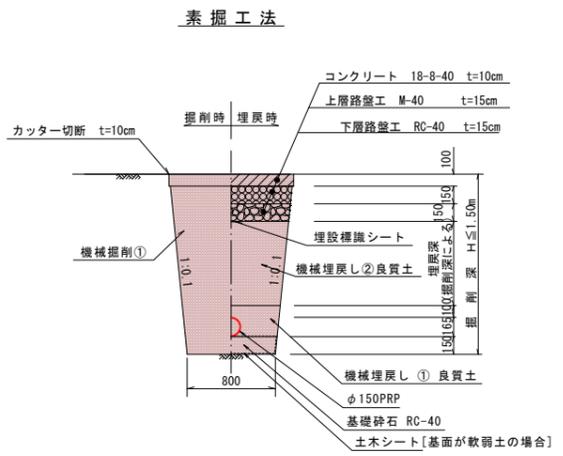
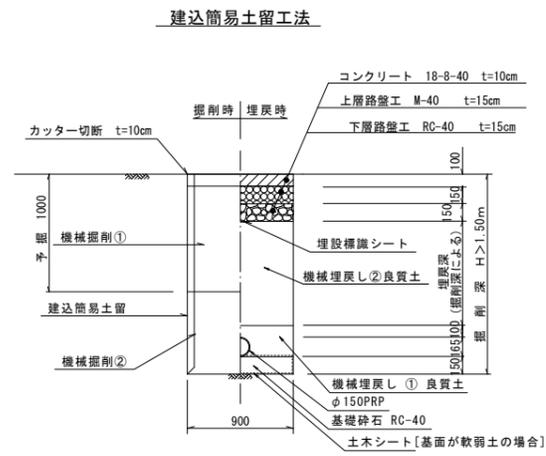


令和7年度	図番	10葉6
事業名	鶴岡市集落排水事業	
工事名	三瀬地区管路施設105~148号新設工事	
位置	鶴岡市由良地内	
148号 推進工・簡易推進 平面・縦断面図	1葉1	
縮尺	1:図示	鶴岡市

土工標準図（舗装原形復旧）

S=1:30

法定外コンクリート舗装道

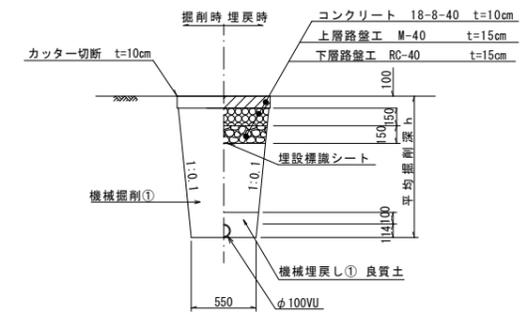


管土盛り1m未満の場合は、  
全巻コンクリートを施工。

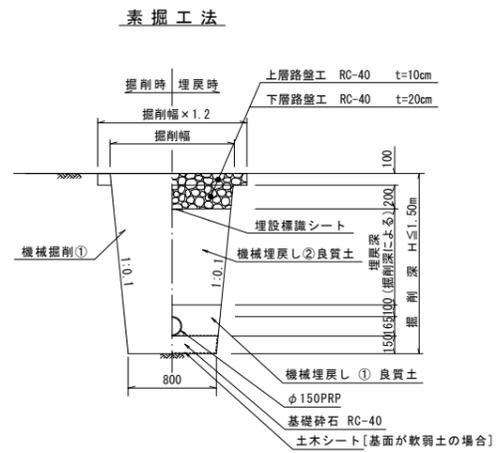
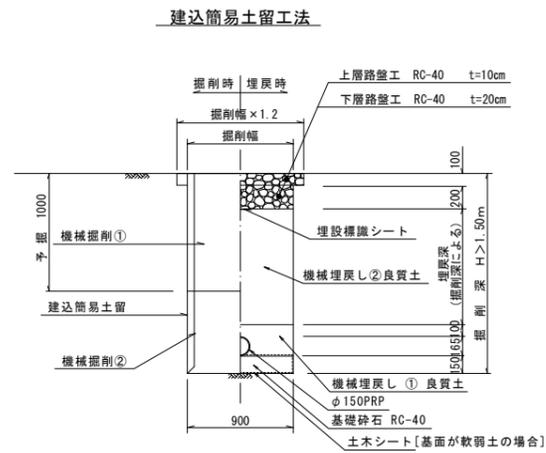
取付管土工図

S=1:30

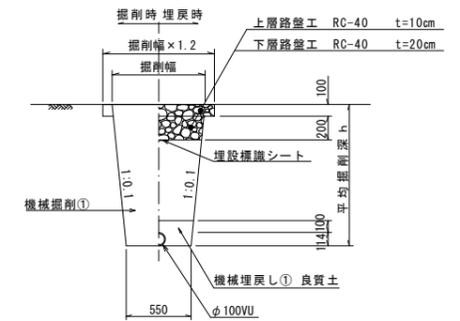
法定外コンクリート舗装道



法定外砂利道



法定外砂利道

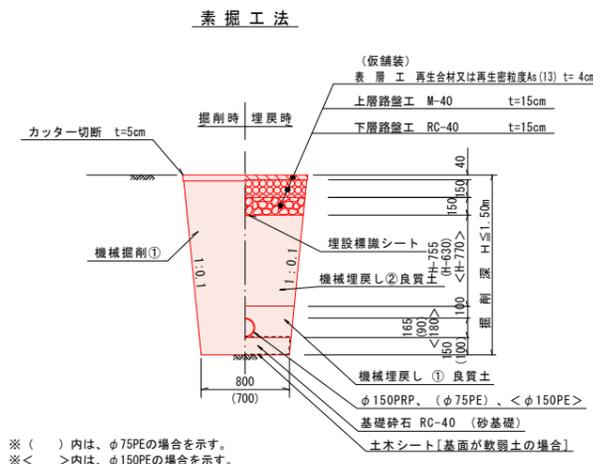
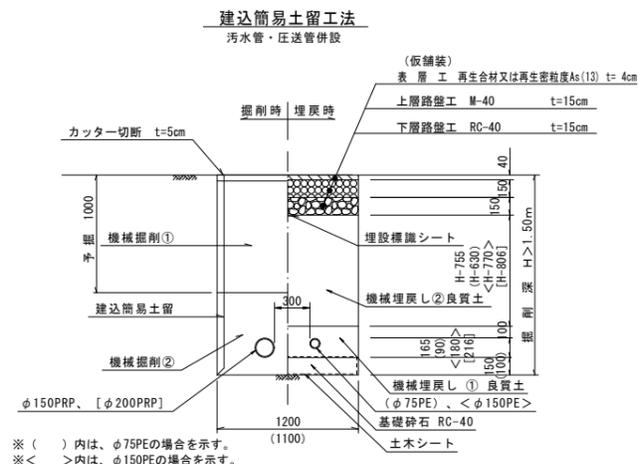
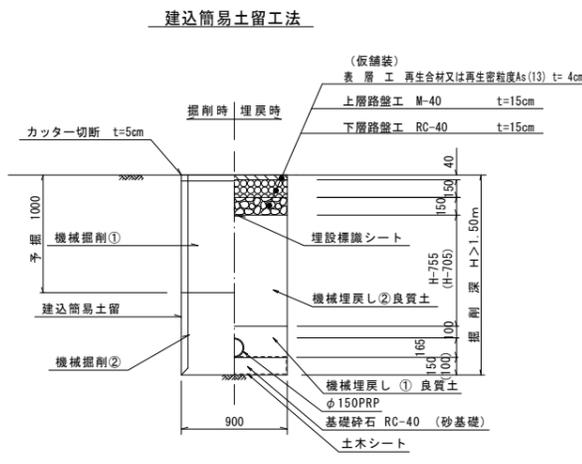


(特記事項)

- ※ 図面と現地が相違する場合は、監督職員と協議すること。
- ※ 法定外コンクリート舗装道の本復旧方法は、監督職員と協議すること。

令和7年度	図番	10葉7
事業名	鶴岡市集落排水事業	
工事名	三瀬地区管路施設105~148号新設工事	
位置	鶴岡市三瀬地内	
土工標準図(3/3) 3葉3 (法定外)		
縮尺	1:30	鶴岡市

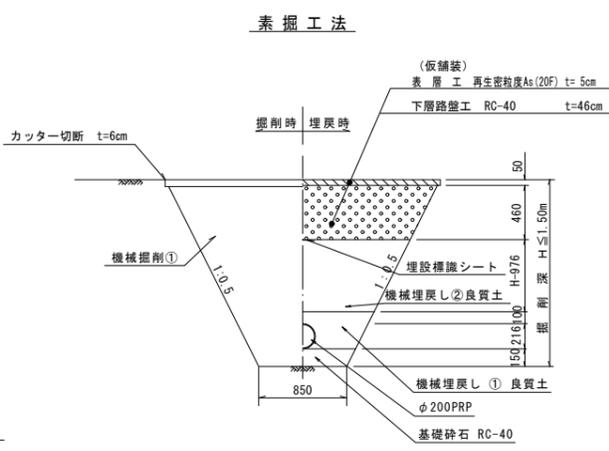
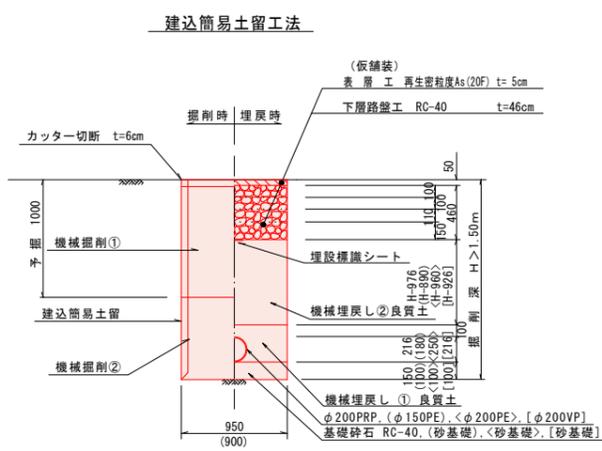
市道 ①



※ ( ) 内は、φ75PEの場合を示す。  
 ※ < > 内は、φ150PEの場合を示す。  
 ※ [ ] 内は、φ200PRPの場合を示す。

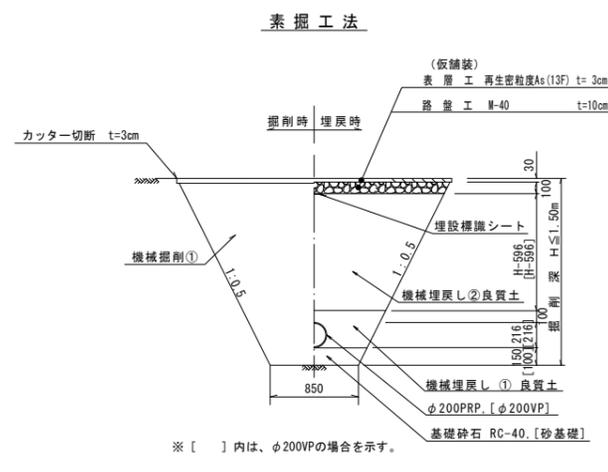
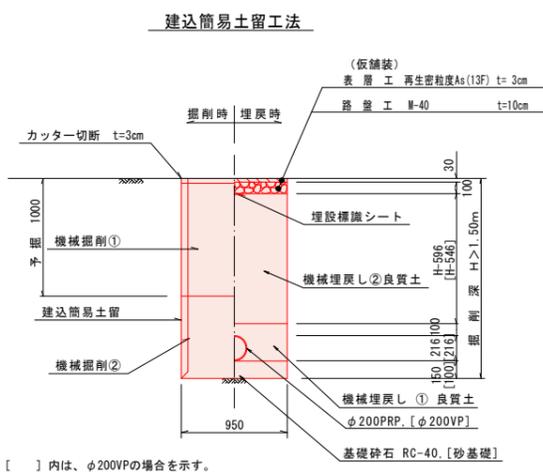
※ ( ) 内は、φ75PEの場合を示す。  
 ※ < > 内は、φ150PEの場合を示す。

県道車道N4交通(旧A交通)



※ ( ) 内は、φ150PEの場合を示す。  
 ※ < > 内は、φ200PEの場合を示す。  
 ※ [ ] 内は、φ200VPの場合を示す。

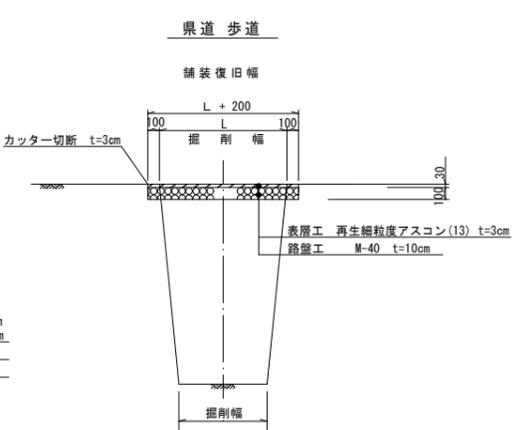
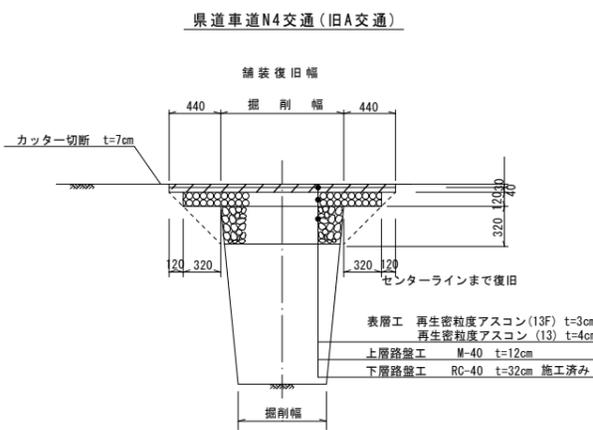
県道歩道



※ [ ] 内は、φ200VPの場合を示す。

※ [ ] 内は、φ200VPの場合を示す。

舗装復旧標準図



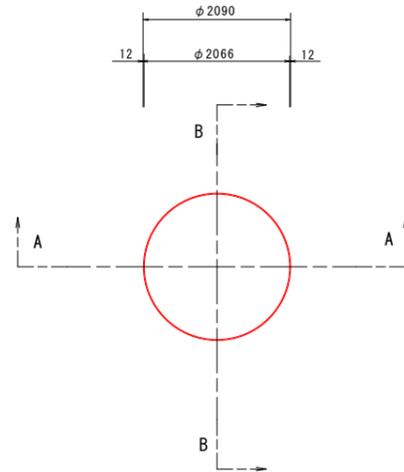
(特記事項)  
 ※ 図面と現地が相違する場合は、監督職員と協議すること。

令和7年度	図番	10葉8
事業名	鶴岡市集落排水事業	
工事名	三瀬地区管路施設105~148号新設工事	
位置	鶴岡市由良地内	
土工標準図(仮舗装復旧) 1葉1		
縮尺	1:30	鶴岡市

# NO. 148-19 ケーシング立坑構造図

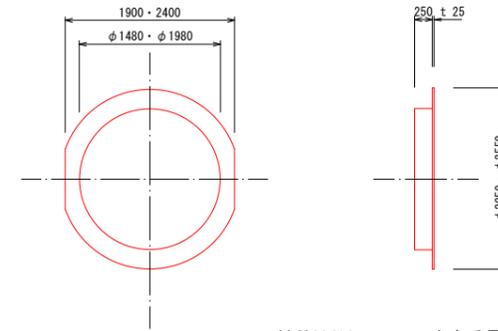
縮尺 1:50

平面図



円形覆工板参考図

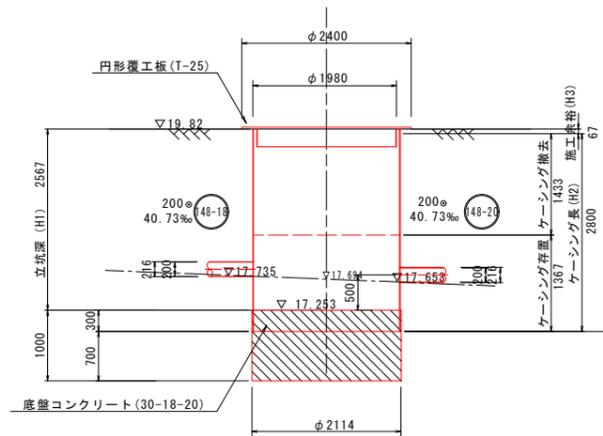
(φ2000・φ1500)



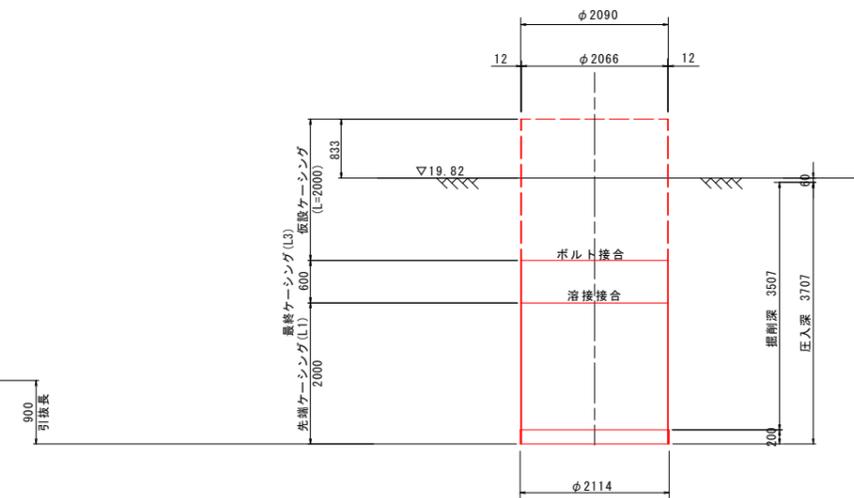
※ 材質SS400

参考重量  
φ2000用 1300kg  
φ1500用 850kg

A-A断面図

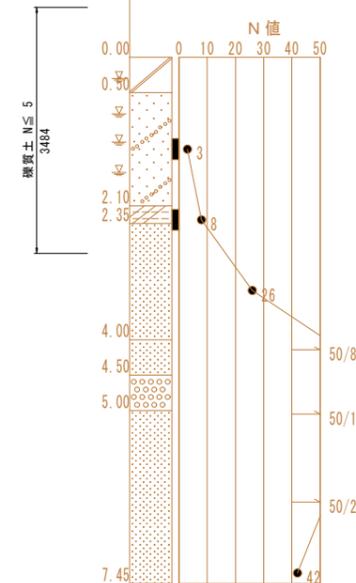


B-B断面図



B・No. 32

T.P. 19.05m  
dep = 7.45 m



鋼製ケーシング式小型立坑設置一覧表

番号	種別・口径	地盤高 (GH)	管底高	底盤高 (EL1)	掘削底面 (EL2)	立坑深 (H 1)	ケーシング長 (H 2)	余裕 (H 3)	先端ケーシング長 (L 1)	中間ケーシング長 (L 2)	最終ケーシング長 (L 3)	推進方式	備考
No. 148-19	片発進・φ2000	19.82	17.653	17.253	16.253	2.567	2.800	0.067	2.000	—	0.600	低耐荷方式	

管芯～底盤必要高一覧表

推進方式	立坑種別	先端管外径	管芯～底盤必要高
低耐荷方式	発進立坑	φ216mm	500 mm以上
	到達立坑	φ216mm	216/2+200≒310 mm

令和 7 年度	図番 10 葉 9
事業名	鶴岡市集落排水事業
工事名	三瀬地区管路施設105～148号新設工事
位置	鶴岡市由良地内
NO. 148-19 ケーシング立坑構造図 葉	
縮尺 1:50	鶴岡市

